



SIC Annual Report (SIC 年次報告)

平成 24 年度

平成 26 年 2 月 1 日改訂

株式会社さがみはら産業創造センター

INDEX

1	インキュベーション施設と入居企業	
1	SIC-1	p 1. 2
2	SIC-2	p 3. 4
3	SIC-3	p 5. 6
4	Desk ¹⁰	p 7
5	SIC 全体	p 8
2	SIC 実施事業	
	ー経営サポートー	
1	企業支援	p 9
2	相模原市中小企業新分野等支援事業	p 1 0
	ー技術開発ー	
3	SIC 燃料電池研究会	p 1 1
4	かながわ環境関連産業ネットワーク事業	p 1 2
5	かながわエネルギー関連ベンチャーマッチング・パートナーリング支援事業	p 1 3
6	さがみはら表面技術研究所	p 1 4
7	首都圏南西地域連携サポート事業	p 1 5
8	SIC 協創プロジェクト	p 1 6
	ー人材育成ー	
9	SIC 経営塾	p 1 7
1 0	SIC 職場リーダー養成塾	p 1 8
1 1	SIC 地域産業界の人づくり支援事業	p 1 9
1 2	さがみはら子どもアントレプレナー体験事業	p 2 0
1 3	SIC アントレ・インターンシップ	p 2 1
	ー資金調達ー	
1 4	SIC 1 号投資事業有限責任組合	p 2 2
	ー販路開拓ー	
1 5	台湾ビジネスサポート事業	p 2 3
1 6	ビジネスマッチング事業（首都圏南西地域連携サポート事業）	p 2 4
	ーインキュベーションコンサルタントー	
1 7	運営サポート事業	p 2 5
	ーその他ー	
1 8	ソーシャルビジネス創育支援事業	p 2 6
1 9	高度実践型人材育成事業	p 2 7
3	SIC 会社概要	
1	さがみはら産業創造センターの歩み	p 2 8
2	主な事業と開始年度（カテゴリー別）	p 2 9
3	財務状況	p 3 0
4	競争的資金の獲得	p 3 1
5	SIC 及び SIC ファンドの出資	p 3 1
6	スタッフ数の変遷	p 3 2
7	支援ネットワーク	p 3 2
8	海外及び国内からの視察受け入れ	p 3 3
9	新聞掲載	p 3 4
1 0	株主と役員	p 3 5

1-1

S I C - 1 (インキュベーションセンター)

入居対象

<新規創業者>

- ・創業準備中または創業間もない企業および個人
- ・研究開発により、新技術や新製品の創出を図り、その事業化を目指す創業間もない企業および個人

<企業>

- ・新分野進出により経営基盤の強化を目指す中小企業
- ・研究開発により新技術や新製品の創出を図り、その事業化を目指す中小企業

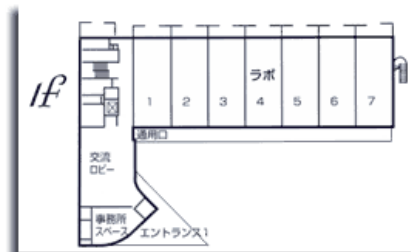
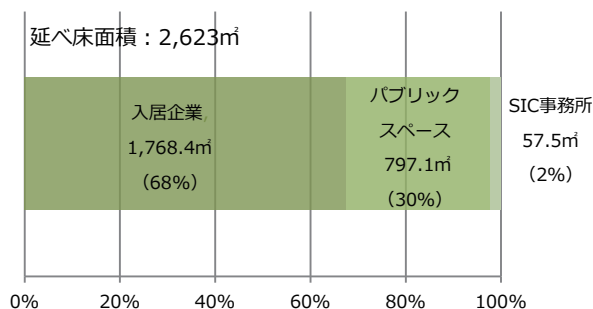
<専門家>

- ・入居企業および地域企業、創業者をサポートすることの出来る専門家
(弁護士、公認会計士、税理士、弁理士、デザイナーなど)

入居期間

3年間(2年間の再契約が2回可)

施設概要



1階平面図



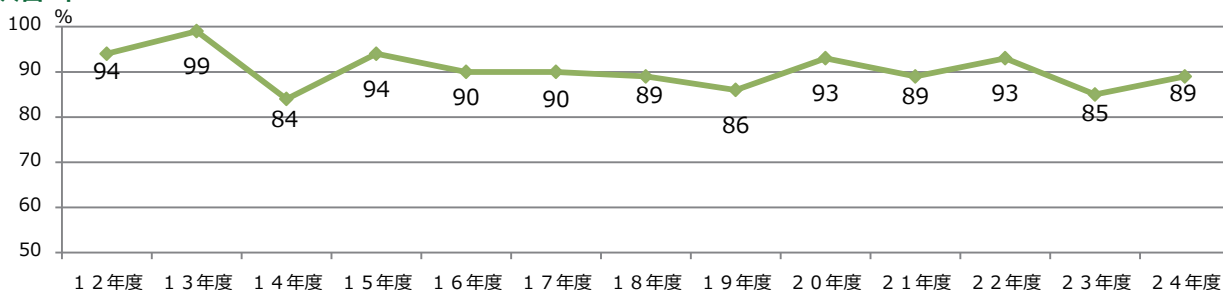
2階平面図



3階平面図

	ラボ	セミラボ A	セミラボ B	スモール オフィス A	スモール オフィス B
設置階	1 階	2 階	2 階	3 階	3 階
部屋数	7 室	7 室	7 室	11 室	13 室
床面積	94.5㎡	47.3㎡	31.5㎡	23.6㎡	17.3㎡

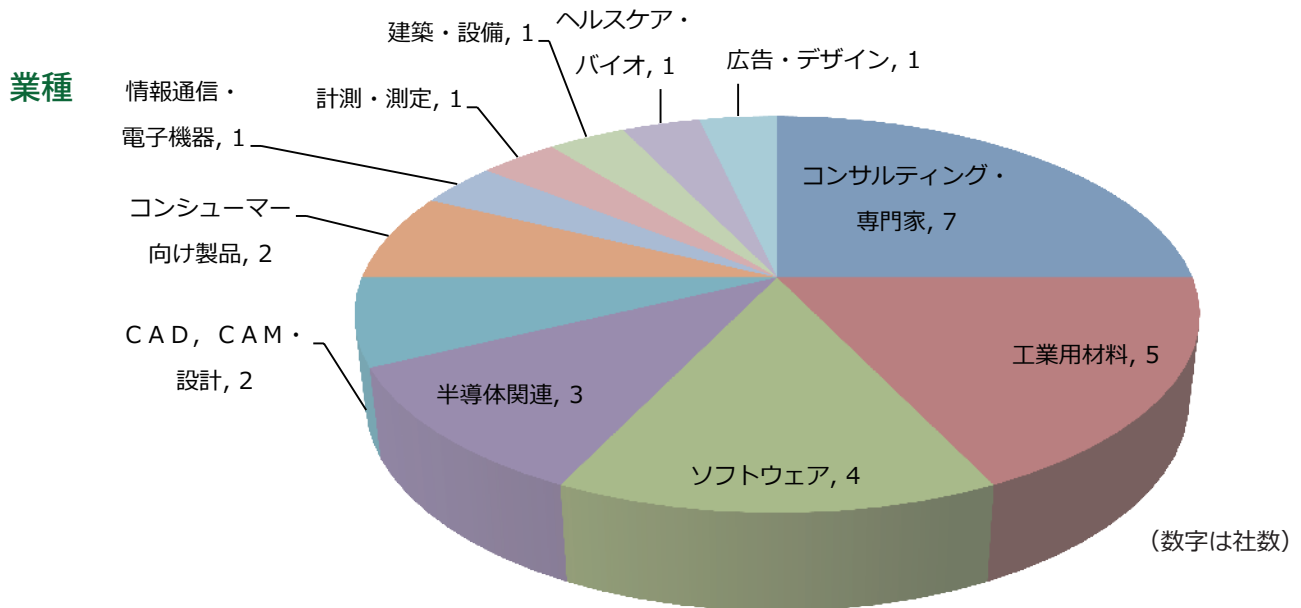
入居率 (賃料ベース)



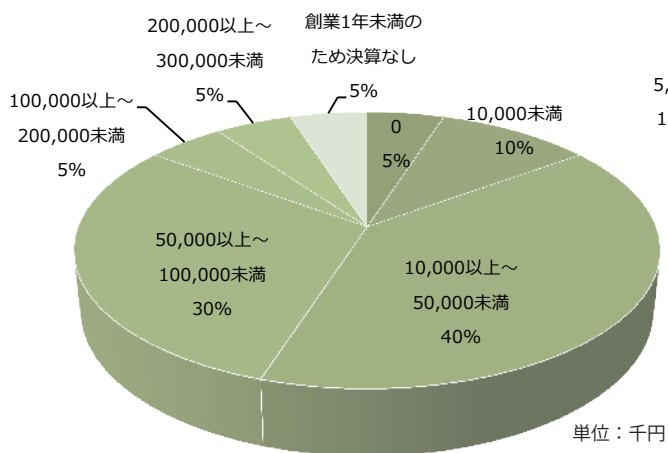
1-1

S I C - 1

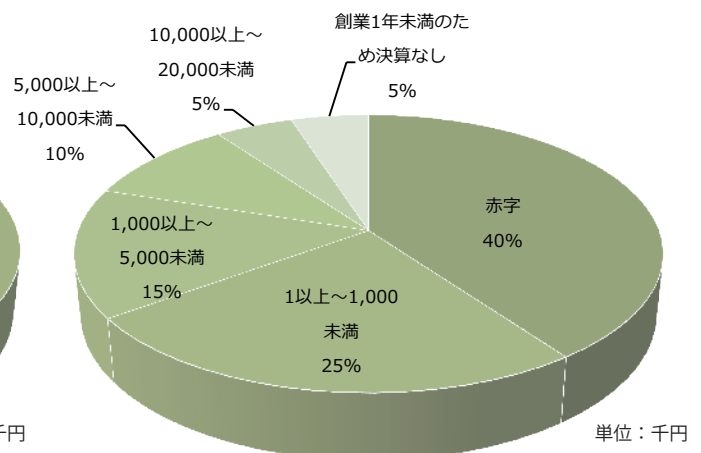
入居企業データ (平成 25 年 11 月 1 日調査時点)



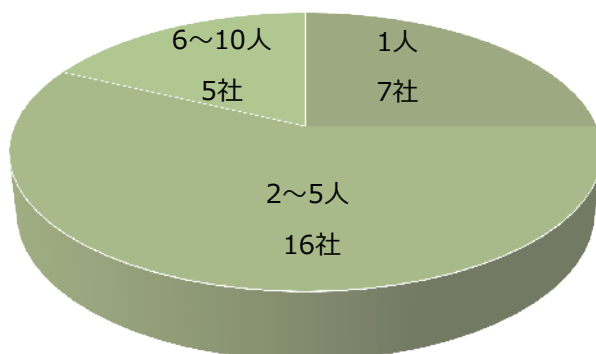
売上高



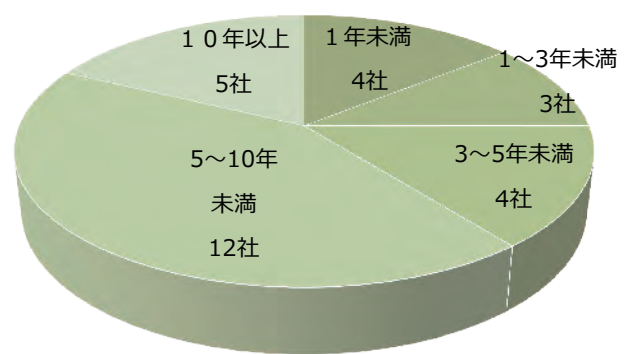
最終利益 (税引き後利益)



雇用



創業年数



売上高合計	1,031,156 千円
雇用者合計	28 社 88 人

1-2

SIC-2 (ポストインキュベーションセンター)

入居対象

<企業>

- ・創業期を経てさらなる規模拡大を目指す企業
- ・新分野進出によりさらなる規模拡大を目指す企業
- ・優れた技術・サービスを保有し、株式公開を目指す企業
- ・企業の研究開発部門

<産学連携企業等>

- ・産学連携による事業化を目指し、共同研究開発を行うとするグループ、企業、研究者等
- ・大学発の技術を活用し、事業化を目指すグループ、企業、研究者等
- ・大学研究室

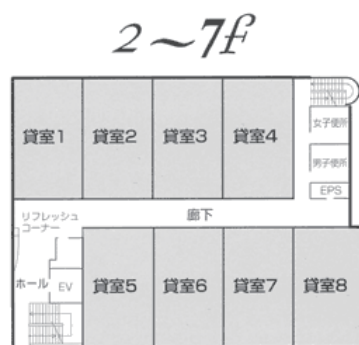
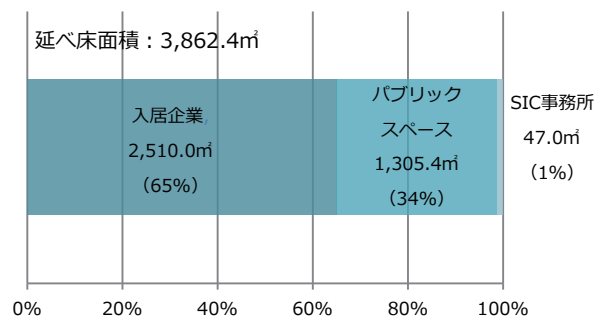


1 階平面図

入居期間

期間制限なし (3年ごとの再契約)

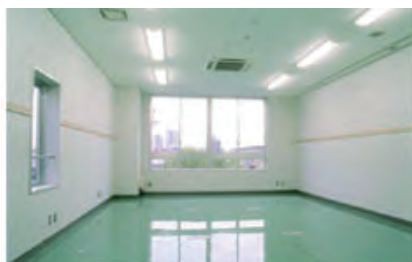
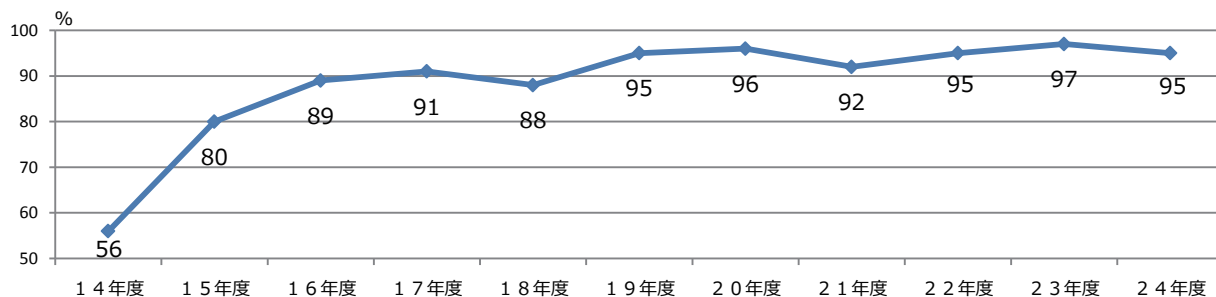
施設概要



2 ~ 7 階平面図

	セミラボ	セミラボ	オフィス
設置階	1 階	2 ~ 4 階	5~7 階
部屋数	2 室	24 室	24 室
床面積	50.2m ²	50.2m ²	50.2m ²

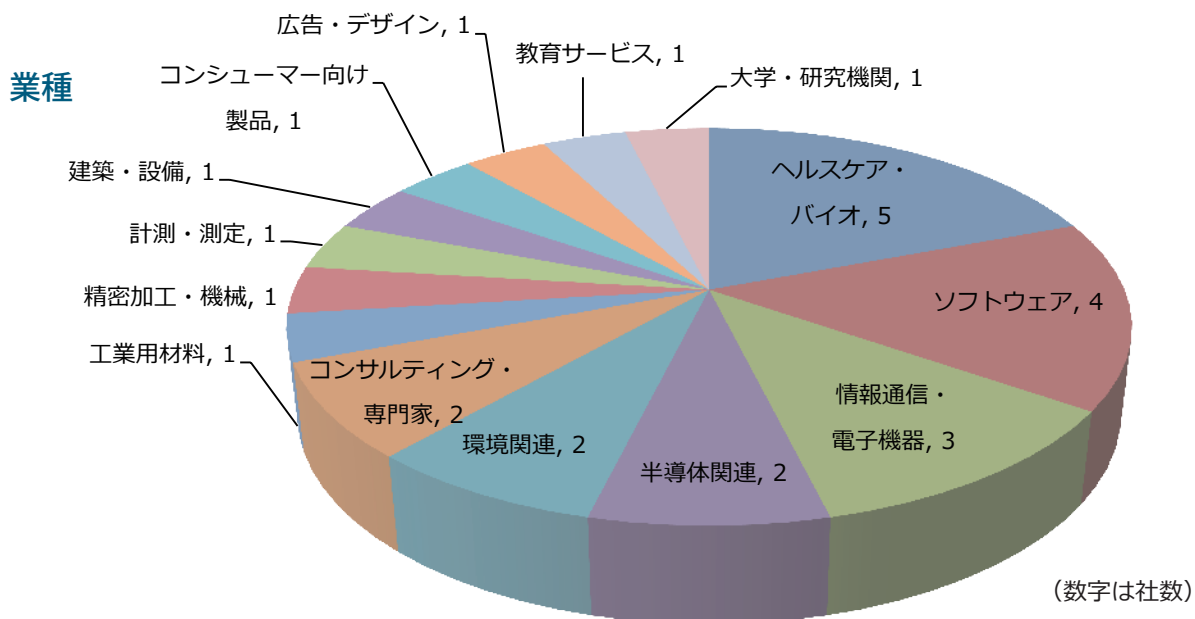
入居率 (賃料ベース)



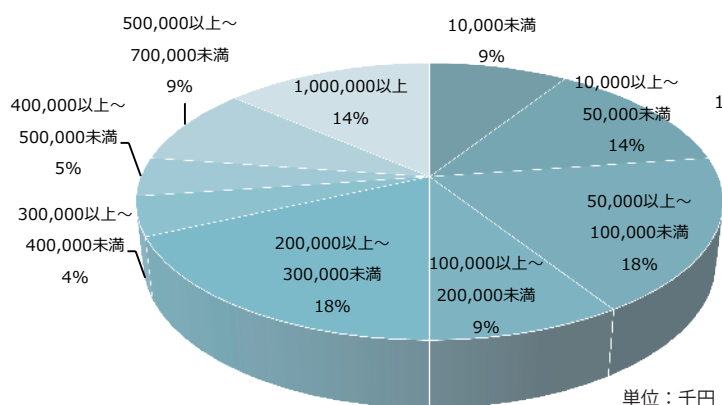
1-2

S I C - 2

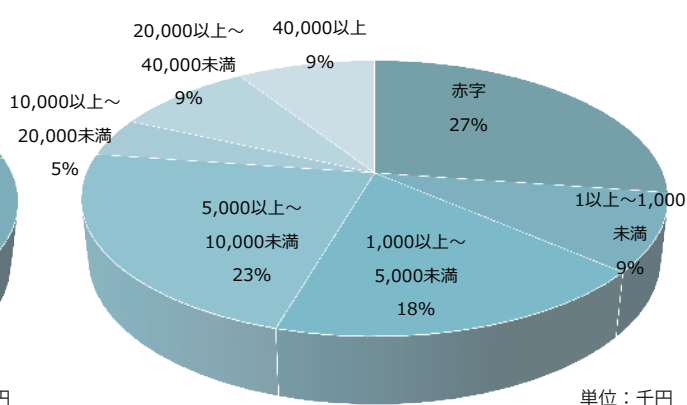
入居企業データ (平成 25 年 11 月 1 日調査時点)



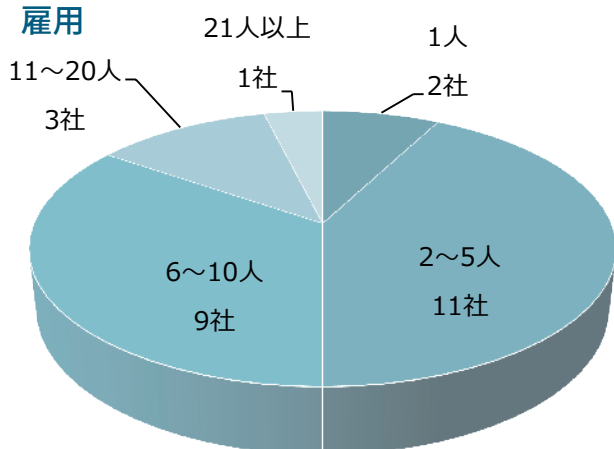
売上高



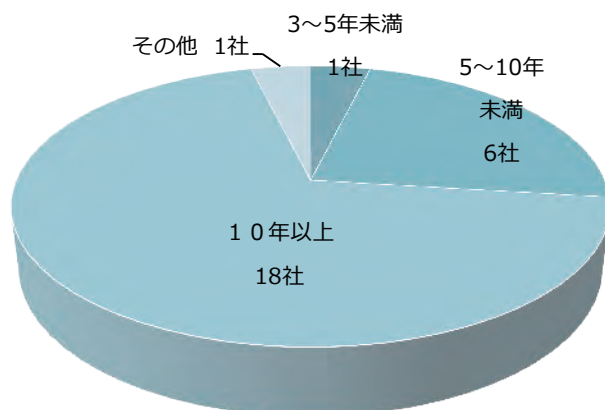
最終利益 (税引き後利益)



雇用



創業年数



売上高合計 10,764,064 千円

雇用者合計 26 社 178 人

1-3

SIC-3 (イノベーションラボ)

入居対象

<企業>

- ・インキュベーション施設での創業期を経て、更なる規模拡大を目指す企業
- ・独創的な技術により、更なる規模拡大を目指す地域の中小起業

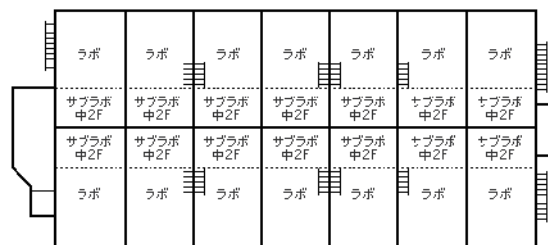
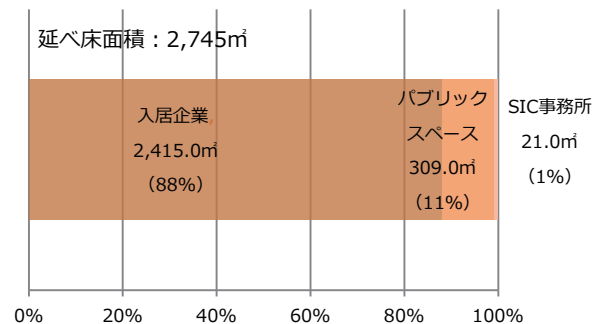
<産学連携企業等>

- ・大学や企業間の連携による事業化を目指して共同研究開発を行うグループ

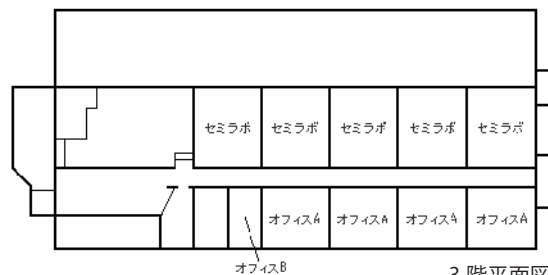
入居期間

5年間（再契約可能）

施設概要



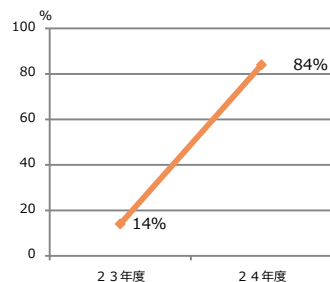
1階, 中2階平面図



3階平面図

	ラボ		セミラボA	セミラボB	オフィスA	オフィスB
設置階	1階	2階	3階	3階	3階	3階
部屋数	14室		3室	4室	4室	4室
床面積	84m ²	28m ²	56m ²	28m ²	42m ²	21m ²

入居率（賃料ベース）

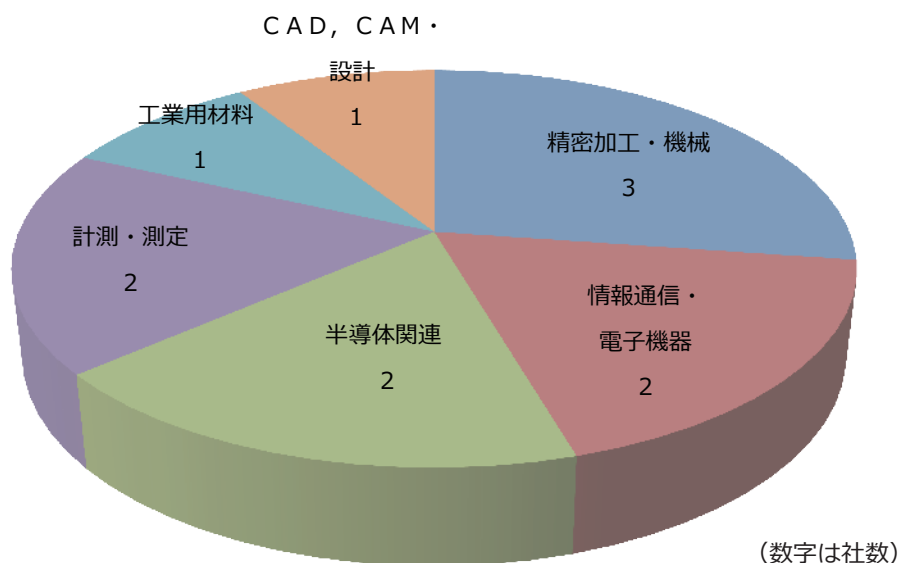


1-3

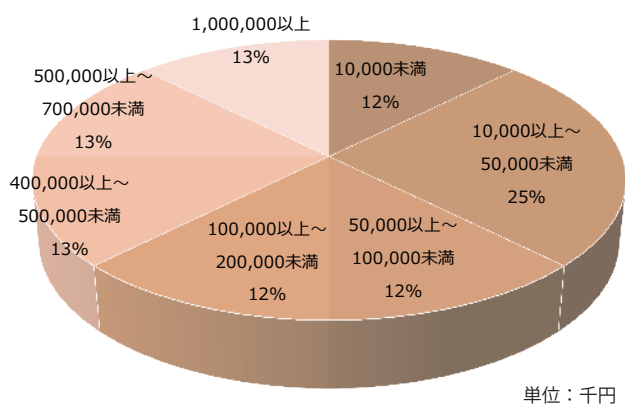
S I C - 3

入居企業データ (平成 25 年 11 月 1 日調査時点)

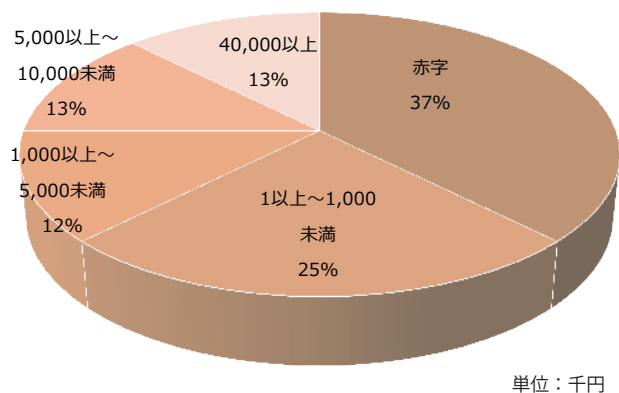
業種



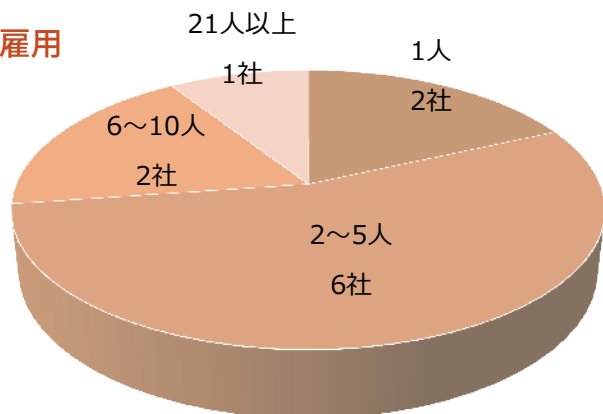
売上高



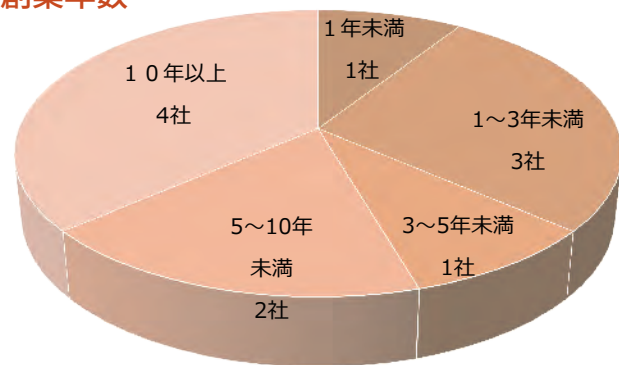
最終利益 (税引き後利益)



雇用



創業年数



売上高合計	2,450,369 千円
雇用者合計	11 社 49 人

1-4

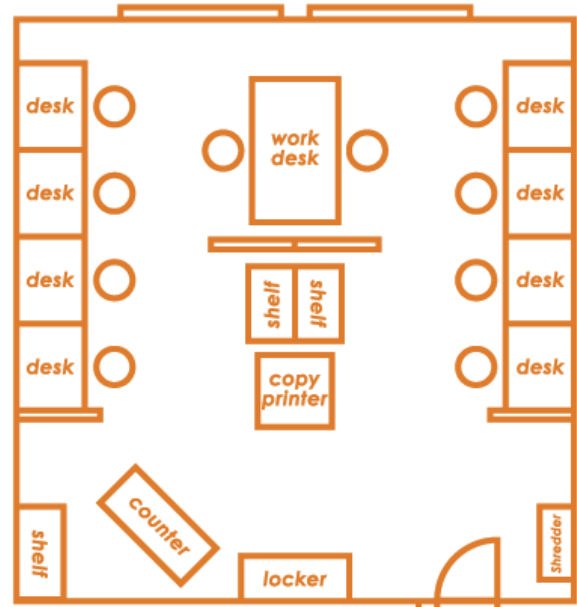
Desk⑩ (インキュベーション型シェアードオフィス)

Desk⑩とは

Desk10（デスクテン）はビジネスに必要な機能を他の会員とシェアすることでオフィスがリーズナブルに利用できるいわゆる「レンタルオフィス」型サービスです。事務機器や会議室なども利用できて、住所使用も可能。しかも、サービスを提供するのは10年にわたリインキュベーション施設を運営しているSICで、経験豊富なインキュベーションマネージャーも常駐しています。

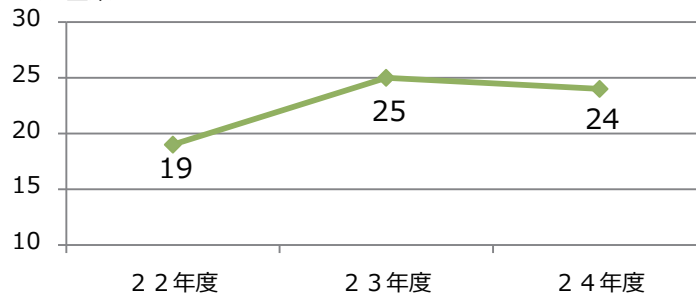
各種サービス

デスク（フリーアドレス）
ワークスペース
オフィス機器
住所使用
専用ロッカー
打ち合わせ・商談スペース
リフレッシュルーム
貸し会議室
秘書電話代行サービス



オフィス平面図

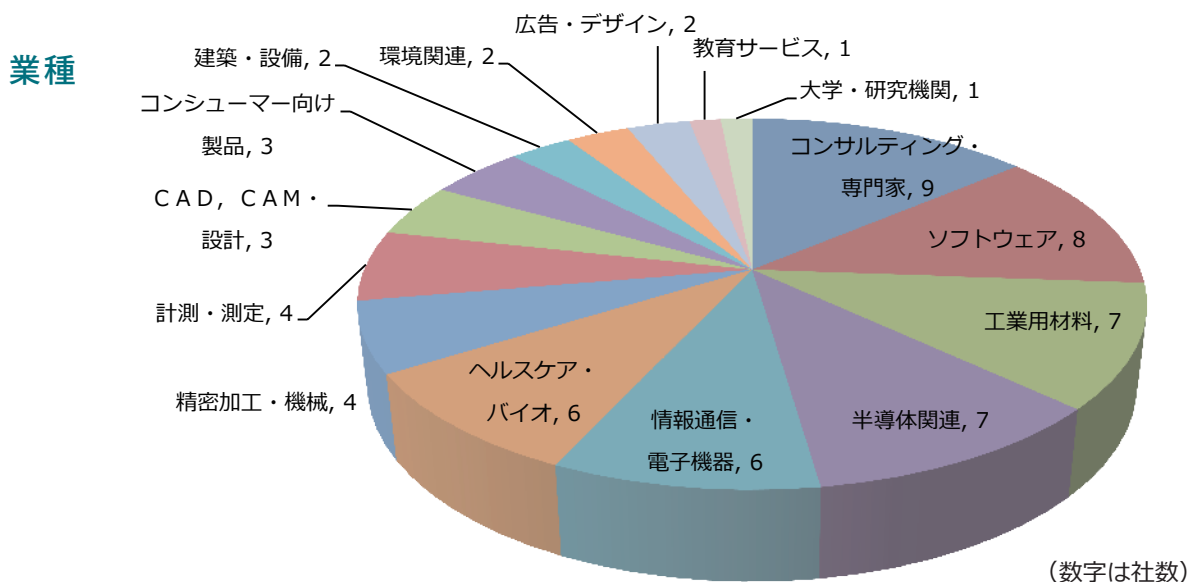
入居者数 者・人・企業



1-5

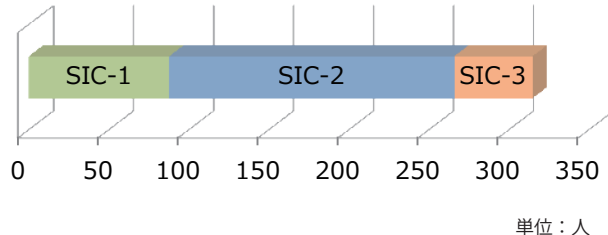
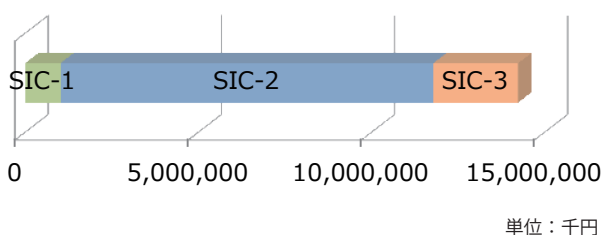
S I C 全体

入居企業データ (平成 25 年 11 月 1 日調査時点)



売上高 14,245,589 千円

雇用 315 名



知的財産 (平成 24 年度内)

	特 許		実 用 新 案		意 匠		商 標	
	企業数	件数	企業数	件数	企業数	件数	企業数	件数
出願数	10	66	2	2	2	6	2	4
うち海外	7	22	0	0	0	0	0	0
権利化数	7	32	2	2	1	5	2	4
うち海外	2	8	0	0	0	0	0	0

研究開発補助金 (平成 24 年度内)

8 社 10 件

展示会出展 (平成 24 年度内)

13 社 26 件 (海外開催含む)

新製品・新サービス (平成 24 年度内)

15 社 23 件

2-1

経営サポート

企業支援

事業の目的

創業や新分野進出に意欲的な入居企業や地域企業の様々な経営課題を解決する。

▶ 経営課題支援の内容

対象：入居企業・地域企業

支援手法：インキュベーションマネージャー（社員）とメンター、アドバイザー、専門家等が連携した支援

協力機関：八千代銀行、神奈川産業振興センター

支援契約数：業務委託契約 14 社、顧問契約 5 社

* 入居者に対しては、企業の成長段階に応じた支援（事業計画の策定、資金調達、人材確保、マーケティング、販路開拓など）の他に、情報提供・相談対応・広報紙掲載・市施策説明会・交流会によるネットワーク形成、展示会共同出展などを行った。

実施事業	実施回数 参加数	具 体 的 内 容	入居 企業	地域 企業
説明会・ セミナー	14 名	相模原市補助金説明会・補助金申請書の書き方セミナー（個別相談会併催） (2012/4/20)	○	
	73 名	SIC 経営者セミナー「企業経営とカイゼン活動」(2013/2/5) トヨタ自動車元副社長、カイゼン・マイスター代表取締役による講演	○	○
交流会		入居者交流会 (2012/12/12 於：サン・エールさがみはら)	○	
情報提供	12 回	SIC かわらばん (入居企業版) 入居企業紹介、セミナー等情報提供、地元紹介、コラム等	○	
	6 回	SIC かわらばん (地域企業版) 地域企業紹介、入居企業紹介、セミナー等情報提供、地元紹介等	○	○
顧問契約	5 社		○	○
業務委託契約 (内訳)	14 社		○	○
	2 社	カイゼン支援		○
	2 社	WEB 製作		○
	2 社	研修 (人材育成)		○
	3 社	展示会出展支援	○	○
	2 社	会社案内等資料作成		○
	3 社	事務支援 (補助金申請、退職規定策定等)	○	○



2-2

経営サポート

相模原市中小企業新分野進出等支援事業

事業の目的

外部の専門家と協同して、新たな事業の開発や新分野への進出等を考えている企業が抱える課題の解決と成長をサポートする。

▶ 支援対象者

- ・相模原市内の法人（法人化予定を含む）である、ものづくり企業（製造業または情報通信業）
- ・新規性、独創性があり、高い成長力を期待できる事業に積極的に取り組もうと考えている企業

▶ 顧客評価

- ・私が一人では気づけなかった課題を上手に引き出していただき、中期計画の策定に役立てることができました。
- ・産学官連携などの進行に悩んでいる際も、的確にアドバイスを頂き、取り組むことができました。また、意見等も積極的に言って頂けるので助かりました。
- ・商品の最終的に対応できる会社とのご縁をつないでいただき商品開発の目途が見えてきました。

▶ 成果

S社：大手企業からの受託開発が成約
F社：大手企業からの受託開発が成約
S社：産学連携による製品開発に着手
T社：公的支援機関のPRレポートや地元経済新聞への掲載

▶ 活動内容

実施事業	参加数	具 体 的 内 容	入居企業	地域企業
企業訪問	71 社	個別に訪問し、近況をお伺いするとともに、使えるような公的支援施策情報等を提供した	○	○
簡易アドバイス	28 社	各企業 1～3 回支援を行い、事業計画・経営関連、新製品・技術関連等の情報提供、アドバイスを実施	○	○
伴走支援（5 社）	S 社	開発システムの事業化、販路開拓		○
	S 社	マッチング会、産学連携支援、補助金相談	○	
	F 社	マッチング会、事業売却検討		○
	R 社	マッチング会、事業計画策定	○	
	S 社	マッチング会、補助金相談、事業計画策定		○
		※簡易アドバイスを行った企業からさらに 5 社を採択し、継続して企業訪問を行い、課題解決の支援を実施		
見ミニ（ビジネス）セミナー・経営総合相談会	13 社	1 回目 2013/2/13 ミニセミナー「試算表はここだけ押さえろ！！」	○	○
	22 社	2 回目 2013/3/13 ミニセミナー「なぜ、あのお客さんは振り向いてくれないのか？」	○	○
支援事例集（ガイドブック）		中小企業新分野等進出ガイドブックを作成、中小企業が活用出来るような支援施策と過去の支援事例を紹介		

2-3

技術開発

SIC 燃料電池研究会

事業の目的

燃料電池及び新エネルギー関連分野に係わる産学官連携や企業間連携体を構築し、S I Cの資源を活用して研究開発成果の事業展開に向けたプロモーションを推進するとともに、展示会などへの出展や情報発信を行うことで、ビジネスチャンスの発掘と事業の拡大を図る。

事業概要

1. 家庭用燃料電池周辺機器開発プロジェクト

- ・家庭用燃料電池『エネファーム』周辺機器開発やその他エネルギー・システムメーカーへのスペックイン（海外エネルギー関連企業との交流など）

2. 燃料電池システム開発プロジェクト（可搬型燃料電池システムの開発など）

- ・～500W クラスの研究会独自の燃料電池開発
- ・高効率燃料（水素）供給システムの開発

3. S I C低炭素プロジェクト（SIC 1号館屋上への設備移設など）

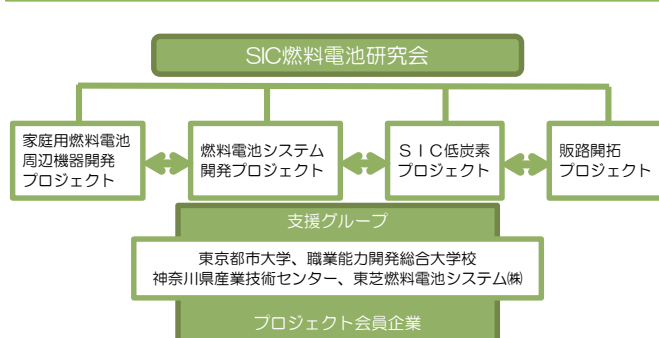
- ・H21 経済産業省低炭素社会に向けた技術発掘
- ・社会システム実証モデル事業の応用研究
- ・ソーラープロジェクト活動開始

4. 販路開拓プロジェクト

- ・研究会活動における開発成果や関連する自社製品を市場へと結びつける仕組みを検討。



研究会の構成



24年度の成果

今年度会員数：民間企業13社（38名）2大学 1公設試が参画

（H23年度15社より3社退会，新規入会企業1社，12社継続入会）①

【プロジェクト成果】

- ・平成24年度研究会活動概要説明会実施（2012年5月9日14:00-17:00）
- ・第1回全体合同研究会活動実施（2012年7月27日14:00-18:00）
- ・新エネ技術習得講座の開催（受講者8名2012年8月27-28日10:00-17:00）
- ・①可搬型燃料電池システム・災害用飲料水供給システム試作本格稼働
- ・②太陽光追尾式発電システム（小型水素ステーション化）の試作開始
- ・第2回全体合同研究会活動実施（2013年1月29日16:00-18:00）
- ・テクニカルショウヨコハマ2013への出展（2013年2月6-8日10:00-17:00）
- ・2013国際水素燃料電池展への出展（2013年2月26-3月1日10:00-18:00）
- ・今年度成果課題抽出及び反省会実施（2013年3月19日14:00-17:00）



2-4

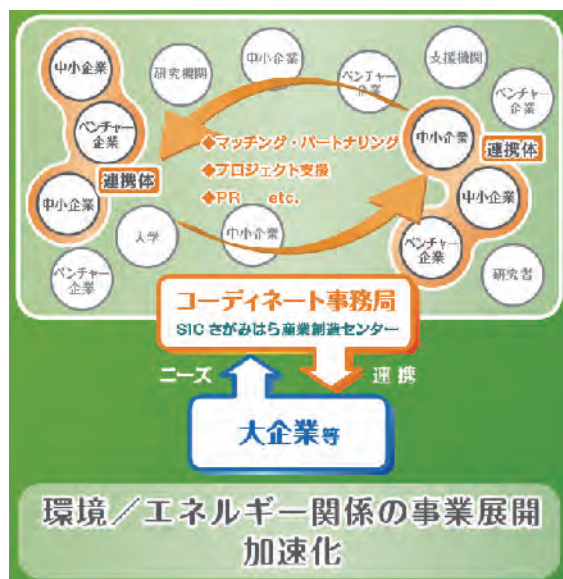
技術開発

かながわ環境関連産業ネットワーク事業

事業の目的

環境関連産業の多様な担い手が、自主的に参加できる新たなネットワークを構築し、専門コーディネータによる起業・事業化支援策の紹介やビジネスマッチングなど、様々な取り組みを総合的に展開することにより、環境関連産業の更なる振興を図る。

事業概念



活動概要

H23 年度より神奈川県内外より広く募集している、かながわ環境関連産業ネットワーク会員から、関連するものづくり開発テーマを募集し、以下クローズな発表会やグループミーティングなどにて有力候補を絞り込み、共同開発プロジェクトの組成・公的資金申請を計画し、実施した。

第1回 創・蓄・省エネフォーラム
かながわ環境関連産業ネットワーク会員提案会
創・蓄・省エネフォーラム ミニセミナー
日時：平成 24 年 7 月 31 日（火）13:30~17:00
場所：サン・エールさがみはら 3 階 第1会議室

機密保持に同意のうえ
非公開・会員限定にて開催

第1回かながわ創蓄省エネプロジェクト打合せ
日時：平成 24 年 9 月 26 日（水）15:00 ~ 17:00
場所：S I C 2 号館会議室

第2回かながわ創蓄省エネプロジェクトグループ打合せ
日時：平成 24 年 11 月 28 日（水）13:00 ~ 15:00
場所：S I C 2 号館会議室

第3回かながわ創蓄省エネプロジェクトグループ打合せ
日時：平成 25 年 1 月 9 日（水）13:30 ~ 16:30
場所：S I C 2 号館会議室

第4回かながわ創蓄省エネプロジェクトグループ打合せ
日時：平成 25 年 2 月 14 日（木）10:00 ~ 12:00
場所：S I C 2 号館会議室

試作品製作
及び提供可
能な製品の
検討

かながわ環境関連産業ネットワーク
創・蓄・省エネプロジェクト報告会
日時：平成 25 年 3 月 19 日（火）13:30 ~ 15:00
場所：S I C 2 号館会議室

各社得意技術などの
提供
市場や用途の
想定
連携の可能性
開発テーマ
の策定

24年度の成果

- ネットワーク会員 78 名（昨年度 58 名）を確保。
- 第1回 創・蓄・省エネフォーラムにて（参加者 24 名）、提案件数 9 テーマを確保。グループ化を行った。
- 4 回にわたるグループミーティングにより、以下提案テーマを創出した。
 - ・高効率熱回収装置搭載の省エネ型バイオ軽油コジェネシステムの提案
 - ・簡単！追尾式太陽光発電システムの提案
- エネルギー関連ベンチャーマッチング・パートナーリング支援事業との連携により、これら 2 テーマをテクニカルショウヨコハマへ出展した。
- 本活動による共同開発プロジェクトの組成・公的資金獲得への申請支援を実施した。
（エネルギー関連ベンチャー連携プロジェクト事業化支援事業へ申請）

2-5

技術開発

エネルギー関連ベンチャーマッチング・パートナーリング支援事業

事業の目的

エネルギー関連分野のモノづくりに取り組むベンチャーを主な対象に、ビジネス・パートナーリングの実施や展示会への出展を支援することにより、連携プロジェクトの事業化促進や、神奈川県内におけるエネルギー関連産業の振興を図ることを目的とする。

事業概念



活動概要

神奈川県委託仕様書に基づき、以下3回の試作化等発表会と展示会への出展を実施した。

第1回 かながわエネルギー関連ベンチャー創・蓄・省エネビジネスマッチング
開催日時：平成24年10月30日（火）14:00~17:00
開催場所：サン・エールさがみはら3階 第1会議室

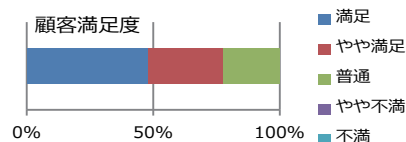
第2回 かながわエネルギー関連ベンチャー創・蓄・省エネフォーラム
開催日時：平成25年1月29日（火）13:00~16:30
開催場所：サン・エールさがみはら3階 第1研修室

テクニカルショー ヨコハマ2013 出展
開催日時：平成25年2月6日（水）~8日（金）10:00~17:00
開催場所：パシフィコ横浜C、D展示場

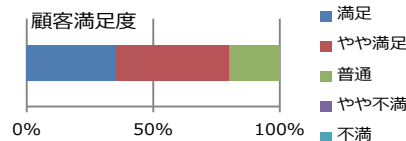
平成24年度 かながわエネルギー関連ベンチャー及びかながわ環境関連産業ネットワーク創・蓄・省エネ 成果発表会
開催日時：平成25年3月5日（火）9:30~12:30
開催場所：神奈川産業振興センター（神奈川中小企業センタービル13階 第2会議室）

24年度の成果

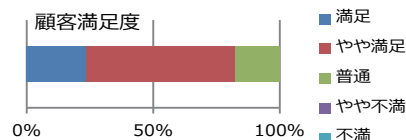
第1回 創・蓄・省エネビジネスマッチング 参加者 36名
かながわエネルギー関連ベンチャー連携プロジェクトの発表、かながわ環境関連産業ネットワーク会員プロジェクトの発表、マッチング会の実施。



第2回 創・蓄・省エネフォーラム 参加者 54名
創エネ・蓄エネ・省エネを一挙に兼ね備えたシステムである燃料電池にフォーカスし、システムメーカー及び大学の専門家によるセミナーの実施



平成24年度 創・蓄・省エネ成果発表会（両事業の成果発表会）
参加者 38名



2-6

技術開発

さがみはら表面技術研究所

事業の目的

地域企業と大学・研究機関の連携・交流機能を整備・運用し、企業の技術的な強みを活かした事業開発に貢献する。

活動実績

	活動内容	件数
1	技術相談・コーディネート・委託業務等	114
2	技術交流会・イベント開催	11
3	広報活動（講演・新聞等メディア掲載）	12
4	研究活動・自己研鑽	5
	合 計	142

活動実績 事例



1. 技術相談・コーディネート・委託業務等

①平成 23 年度戦略的基盤技術高度化支援事業（3 次補正）

テーマは「次世代パワーデバイス向け革新的手法を用いた成膜技術の開発」。

当所は事業管理機関かつ研究機関として参画し一定の成果を残した。（経済産業省の委託業務）

②平成 23 年度新事業活動促進支援補助金（農商工連携等による被災地等復興支援事業）

「革新的表面形状制御による高密着 DLC 被覆自動車部材の開発」では、再委託先として参画した。（経産省の委託業務）

③相模原市新技術実用化コンソーシアム形成支援事業「表面形状を制御した医療用機能部品の要素開発」には産業支援機関として事業管理を担当した。（相模原市の委託業務）

2. 技術交流会・イベント開催

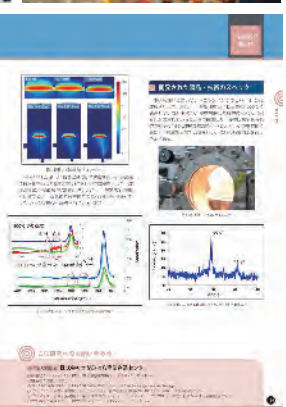
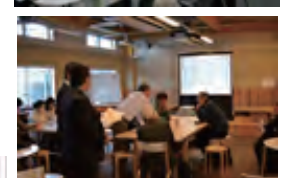
各種事業や協力機関として関係の深い共同研究者・顧客・装置メーカーらを技術交流会等に招き、大小含め 11 回開催した。テーマを決め技術や事業紹介の後に、各人が忌憚なく意見を言える場を作っている。これにより普段交流することのない人々がネットワークを構築し、技術プラットフォームとしての基盤を形成することができた。

3. 広報活動（講演・新聞等メディア掲載）

相模原市や TAMA 協会、神奈川県等主催のセミナーにて講演や展示会を行い、当所の活動の宣伝とともに活動内容を知らしめることができた。新聞等メディアでは、サポインや相模原市コンソーシアムの案件を中心に、日経や日刊工業新聞、市報のほかに業界専門誌も含め 8 件掲載された。

4. 研究活動

（社）日本真空学会では、各成膜手法による DLC に関する硬度などとの相関性をまとめ、学会発表を行った（第 53 回真空に関する連合講演会「Tribological properties of Diamond-Like Carbon(DLC)films prepared by variety of deposition methods.」）。



2-7

技術開発

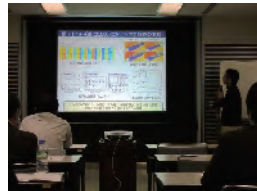
首都圏南西地域連携サポート事業

事業の目的

相模原市を中心としたいわゆる首都圏南西地域（神奈川県県央地域及び町田市、八王子市）において、産学官連携による、新事業創出や技術の高度化を図り、地域経済の活性化を目指す。

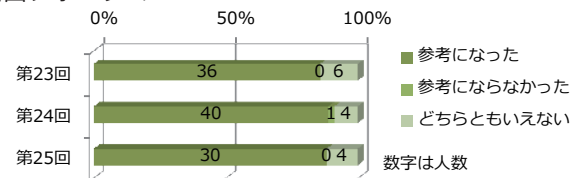
参加者数

南西フォーラム		分科会（宇宙研究会）	
第23回	94名	第1回	58名
第24回	113名	第2回	47名
第25回	94名	第3回	35名
計	301名	計	140名

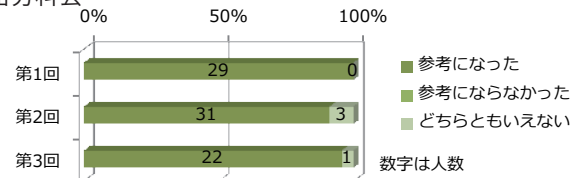


顧客満足度

南西フォーラム

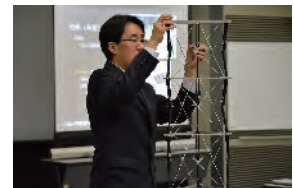


宇宙分科会



顧客の声

- ・宇宙開発の中で中小企業との関わり方が、多少理解することができた。
- ・製造技術や生産工程の話がよく参考になった。製品に関する理解を深めたことにより、今後ビジネスネスマッチングを図っていきたい。
- ・自動車の今後の動きが確認でき勉強になった。交流会では色々な業種の方と名刺交換ができ、有意義な時間を過ごすことができた。
- ・神奈川県での宇宙産業拡大に向け、相模原が中心的役割を担っていただきたく、今後も継続を期待している。



事業概要

- 産学・産産マッチングを推進することを目的に、時流に即したテーマを選定し、南西フォーラムを年間3回開催。
- 南西フォーラムから派生した技術課題を解決するために、分科会による活動を行うとともに、組成に向けた調査活動を実施。主な分科会：宇宙分科会
- 南西フォーラムのホームページを管理運営し、また、南西フォーラムニュースとして南西地域の企業や団体の事業やイベントのPRを行う。

	開催日	内容
南西フォーラム	第23回 平成24年9月5日	宇宙産業へのビジネス参入を考える
	第24回 平成24年11月6日	産産マッチング お互いの技術を高め、新たな事業を創出しよう
	第25回 平成25年2月8日	次世代自動車と中小企業の参入機会を考える
宇宙分科会	第1回 平成24年11月29日	火星飛行機の研究と研究現場でのニーズについて
	第2回 平成25年1月22日	宇宙科学研究における工学分野の役割
	第3回 平成25年3月28日	高精度大型宇宙構造システムにおける質の保証と向上について

2-8

技術開発

SIC 協創プロジェクト

事業の目的

業種や環境の異なる「企業と企業」「人と人」「技術と技術」の新たな出会いを模索しながら、単独では難しい新分野進出、新製品の開発に企業連携で取り組む。

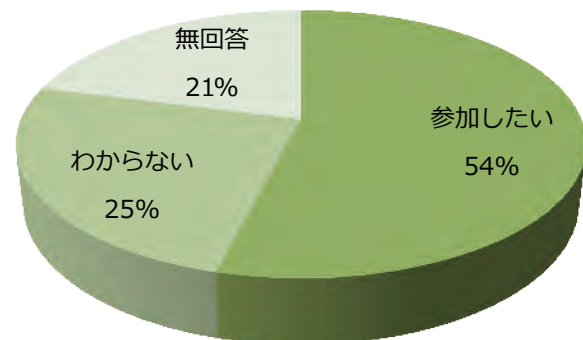
▶ 交流会参加者数

195 名 100 社

▶ 顧客の声

- ・他企業との交流ができてよかった。
- ・地域での連携の可能性を感じることができた。
- ・多くのシーズ発表があり、おもしろかった。
- ・自社の技術との融合の可能性を考えてみたい。
- ・多くの会社と情報交換ができた。

▶ 顧客満足度（次回交流会・懇親会への参加の是非）



▶ 交流会・ワーキンググループ（以下WG）の年間活動概要

● 交流会 ●

開催日 平成 24 年 6 月 18 日

概 要 近隣企業との交流を深めることにより、企業間連携での新たなプロジェクト発足を目指す。

● ワーキンググループ ●

「水」WG開催概要 5 回のWG会議開催

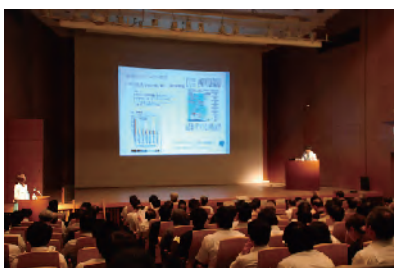
【テーマ】 汚染水浄化システムの開発

「紙」WG開催概要 7 回のWG会議開催

【テーマ】 リニア式角紙管を活用した製品開発

「LED光」WG開催概要 12 回のWG会議開催

【テーマ】 光を使ったセキュリティ関連商品の開発を模索
双方向型映像中継装置の開発を模索
黄金比コンパスの試作



2-9

人材育成

SIC 経営塾

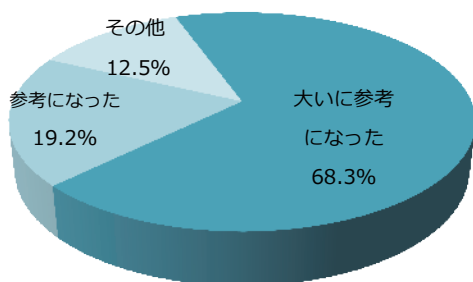
事業の目的

先端的なケーススタディを通じ、経営の理論と実践を学び、塾生自らが、事業構想を再構築，することにより、「真の経営力」を養成することを最終目的としています。

▶ 受講生

- ・2012年は8名が参加（最終発表は7名）
- ・11年間で、約100名が受講
- ・次世代の経営者や経営幹部の受講生が多い

▶ 顧客満足度



▶ 顧客の声

- ・自社は刻々と変化するので、やり続けることが大事だと感じました。
- ・経営理念の見直し、社員全員が実際に一丸となって取り組んでいるか、再認識させられました。
- ・日々の業務で問題となっている事柄と理論をリンクして説明いただけた、また、問題へのアプローチ方法が学べた。



▶ 活動内容

講義

最先端の経営理論を学びます。

- 先端企業経営者の実体験や様々な先進的な取り組み事例を通して最新の経営理論と実例を学び、自社の課題に置き換えて検証します。



討論

塾生、コーディネータとの討議を重視します。

- 課題図書、事例研究を基に、異業種の方々と討論が自社を見つめ直し、自社の事業構想を構築する良い機会となります。



事業構想の再構築

最終ゴールは自社の事業構想の再構築です。

- 実証的な研究や討論を通し、自社を客観的に見つめ直し事業構想を策定し、自社における「NEXT STAGE」を考えます。



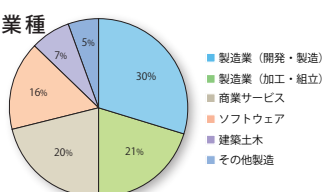
■ 講義概要：

全10回・11日間で約9ヶ月かけて行います。

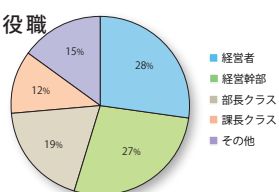
回	課題シート・講義内容
1	オリエンテーション
2	わが社の経営の現状を語る（1泊2日合宿）
3	現状を分析する
4	存在意義を問う
5	コアコンピタンスを定義する
6	戦略シナリオを考える
7	財務構造を改善する
8	組織文化の変革を仕掛ける
9	事業構想を打ち出す
10	わが社の経営の将来を語る（自社の事業構想の発表）

▶ 過去10年間の受講生のデータ

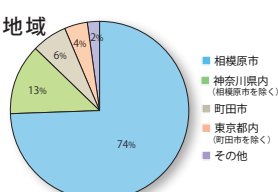
業種



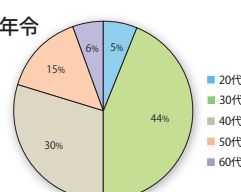
役職



地域



年齢



2-10

人材育成

SIC 職場リーダー養成塾

事業の目的

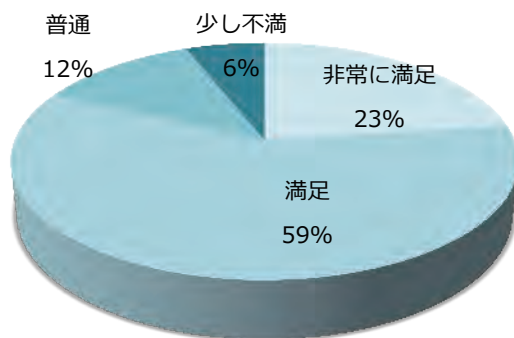
地域企業の様々な職場リーダーとの他流試合を通じてコミュニケーション力と課題解決力を養う。

- ・自分で考え、行動する力を習得する。
- ・身近な課題を解決し、自信を持つ。
- ・若手リーダー間の人脈をつくる

▶ 受講生

参加者 18 名

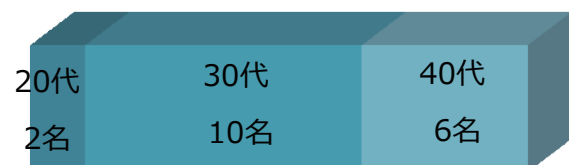
▶ 顧客満足度



▶ 顧客の声

- ・リーダーの役割について学ぶことができた
- ・自分に自信がついた
- ・自分を見つめ直すよい機会となった
- ・同じ立場の人達と交流できた
- ・ティーチングとコーチングの違いが理解できた

▶ 受講生の年齢構成



▶ カリキュラム

	開催日	内容
1	平成 24 年 6 月 29 日	オリエンテーション
2	平成 24 年 6 月 30 日	職場のコミュニケーション① (コーチングトレーニング)
3	平成 24 年 7 月 18 日	目指すリーダー像を明確にする
4	平成 24 年 8 月 7 日	職場の課題を抽出する
5	平成 24 年 8 月 21 日	職場の課題解決① (課題・目標設定)
6	平成 24 年 9 月 4 日	職場の課題解決② (対策検討、実行計画)
7	平成 24 年 9 月 19 日	職場のコミュニケーション② (モチベーション向上)
8	平成 24 年 9 月下旬 ~ 11 月下旬	課題解決に向けた対策を実践
9	平成 24 年 12 月 7 日	成果発表会 ※ 受講生の企業から 15 名の経営者が参加



2-11

人材育成

SIC 地域産業界の人づくり支援事業

事業の目的

- ・子どもワークショップ・・・ “ものづくり” の楽しさを伝え、将来、地元で活躍する人材を育成する
- ・企業紹介冊子発行・・・ 中小企業の魅力を学生や学校関係者に伝える
- ・企業PR・・・ 中小企業の円滑な人材採用を目標に、PR活動を支援する。

参加者の声

- ・自分が考えて世界に1つのオリジナルが出来てとても良かった。＜子どもワークショップ参加者＞
- ・地元企業を知り興味を持ったり、身近なものの仕組みを学ぶ良い機会だと思う。＜子どもワークショップ保護者＞
- ・それぞれにしっかりと大切な役割があることを学びました。＜町田工業インターン生徒＞
- ・生徒さんがとても明るく元気だったので、社内の雰囲気も明るく元気になった。＜町田工業インターン受入企業＞

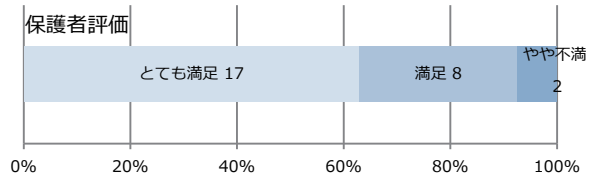
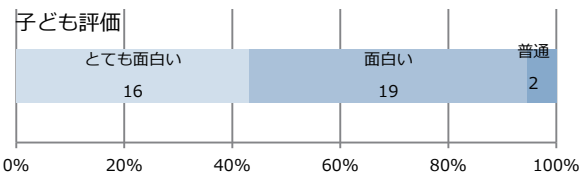
事業概要

子どもワークショップ

【実施日】平成24年10月27日、11月17日、12月8日

【参加者】56名（28組の親子が参加）

【実施内容】「オリジナル光る小物入れを作ろう」LEDと光ファイバー、プログラミング、紙を使った、星形の光る小物入れを製作。協力社（株）シンフォディア・フィル、レボックス（株）、日本化工機材（株）

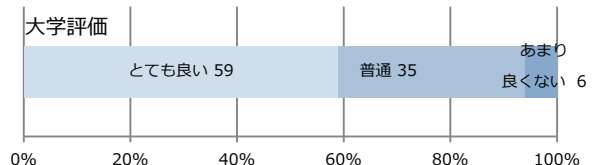
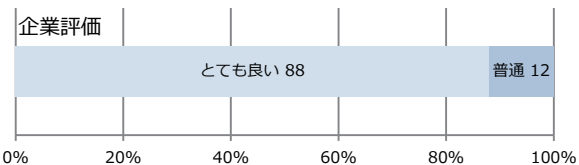


企業紹介冊子『い〜コトなび』の発行

【発行日】平成25年2月

【発行部数】3,000部（70余の近隣大学の就職課等に配布）

【内容】女性ライター達による女性目線の企業紹介。身近な会社のちょっといい話を集めました。社員が働きやすく、または自社が発展して行く為の「よい取り組み」をしている魅力的な企業を紹介。



企業PR 学生及び学校の就職担当者に中小企業の魅力を知ってもらう取組み

【町田工業高校インターンシップ：平成25年3月に実施】

地域のものづくり中小企業の次代の担い手として期待されることから、24名を18社が受入。

4日間と短い期間ではあったが、双方にとって有意義なものとなった。

【学校就職担当者企業訪問バスツアー：平成24年9月、平成25年3月に実施】

企業と学生の接点となる教職員に中小企業の魅力を理解してもらうために実施。

9月は、企業6社11名、大学7校9名が参加、3月は、企業10社10名、学校9校12名が参加。

【出前講義：平成24年6月～12月に全5回実施】

情報発信が不足している地域中小企業の魅力を直接大学生に伝えることを目的に実施。

職能大、法政大、多摩大、玉川大の授業やゼミにて講義を行う。

2-12

人材育成

さがみはら子どもアントレプレナー体験事業

事業の目的

小学生、高校生を対象に初めて出会う仲間と会社設立から決算までの起業のプロセスを疑似体験することで以下のようなことを学ぶ。

1. 会社や経済の仕組みを知る
2. 失敗を恐れずに挑戦できる心を養う
3. 自分の考えで行動できる力を養う
4. チームワークの大切さを知る
5. お金の大切さを実感する

参加者数

子ども（小学 5.6 年生）45 名 累計 485 名
ジュニア（高校生）22 名 累計 235 名

顧客満足度

仕事に対する意識が変わった 86%
お金に対するイメージが変わった 86%
将来自分で会社を作りたい 44%
次回も参加したい 83%

参加者の声

- ・仕事をして稼いでいる人はすごいなあと思った。
- ・お金を稼ぐのはとても大変なことだと実感した。
- ・無駄遣いをせずお金を大切にしたいと思った。
- ・この4日間、いつもと違う喜びを味わうことができた。
- ・会社を経営するのはとても責任が重い。

事業概要

		開催日	内容
ジュニアアントレ	1 日目	平成 24 年 8 月 5 日	・オリエンテーション ・経営者講演 ・製造体験 ・会社設立
	2 日目	平成 24 年 8 月 7 日	・商品企画、発表
	3 日目	平成 24 年 8 月 8 日	・事業計画書作成 ・融資交渉
	4 日目	平成 24 年 8 月 10 日	・商品製造
	5 日目	平成 24 年 8 月 11 日	・販売 ・決算 ・振り返り ・報告会 ・修了式
子どもアントレ	1 日目	平成 24 年 8 月 15 日	・会社設立 ・商品決定 ・マーケティング講義
	2 日目	平成 24 年 8 月 17 日	・事業計画書作成 ・融資交渉
	3 日目	平成 24 年 8 月 18 日	・材料仕入れ ・商品製造
	4 日目	平成 24 年 8 月 19 日	・販売 ・決算 ・返済 ・振り返り ・修了式



2-13

人材育成

SIC アントレ・インターンシップ

事業の目的

『既成の固定概念に捉われることなく、新たな領域に、自ら考え出したアイデアで、失敗を恐れずに挑戦する気概に溢れた人材』とは何かを理解するとともに、実社会において、社会人として、人としてどうあるべきかを学ぶ。



参加者数

8名 累計94名



顧客満足度



インターンシップ参加者の声

- ・『JUST DO IT!!』絶対に力になります。アントレやってよかったって思えるはずです。
- ・『「気づき」自分の限界・仲間の大切さ・時間の限り・仕事をやる実感』忙しい。そして夏休みは毎日アントレ。だから、生半可な気持ちでは参加できないと思います。
- ・『経営や企画のこと以外でも学ぶことはたくさんあります!!』自分の頑張り次第でたくさんのことを学べる場です。
- ・『不安が達成感に変わるインターンシップです』最初は「無理だ」「できない」と思っているのも大丈夫です。必死に取り組んでいけば気づいたらゴールです。
- ・『必ずやった先に見つかるモノがある』
- ・『大切な仲間と共に、大切な時間を共有できる場』
- ・『自分を知ることができる場所』



事業概要

『一足先に社会人!』を経験してもらうために、毎年8月に開催される「子どもアントレ」「ジュニアアントレ」の企画運営を大学生が中心となって行うものです。

	開催日	内容	概要
1	平成24年5月20日	キックオフ	ビジネスで重要な「報連相」「挨拶」「礼儀」などについて学ぶ
2	平成24年6月3日	コミュニケーション研修	仕事の成否に直結する良好なコミュニケーションの取り方について学ぶ
3	平成24年6月～8月	企画・準備	「子どもアントレ」「ジュニアアントレ」に参加する子どもたちに最高のサービスを提供する為に悪戦苦闘しながら企画、準備を行う
4	平成24年7月15日	コーチング研修	「子ども達の考えや思いの引き出し方」について学ぶ
5	平成24年8月5日、7日、8日、10日、11日	ジュニアアントレ (高校生対象)	高校生に会社経営の疑似体験プログラムを提供する
6	平成24年8月15日、17日～19日	子どもアントレ (小学生対象)	小学生に会社経営の疑似体験プログラムを提供する
7	平成24年10月4日	アントレ実施結果報告 修了式	アントレの実施結果と次年度への提言について主催者に報告



2-14

資金調達

SIC1 号投資事業有限責任組合

事業の目的

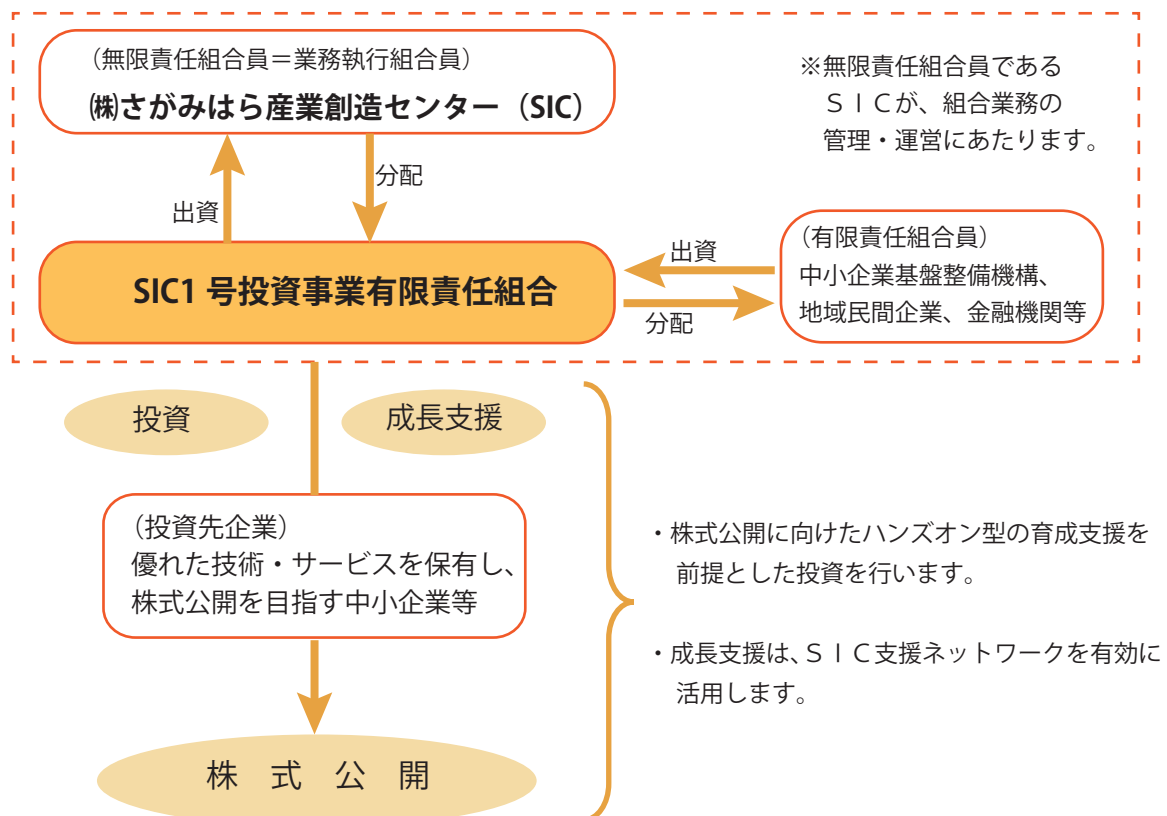
- ・S I Cの金融支援サービス機能の強化（ハンズオン型企業成長支援の確立）
- ・キャピタルゲイン等成功報酬の獲得によるS I C財務基盤の確立

▶ 投資先企業

地域		設立年月	
東京都	7 社	設立 7 年未満	11 社
神奈川県	4 社	そ の 他	0 社
計	11 社	計	11 社

▶ 内容

- ・平成 17 年 11 月に 5 億円のファンドを組成
- ・現時点までに設立 7 年未満のアーリーステージの企業 11 社に 344 百万円を投資実行
- ・ファンドの満期（平成 27 年 10 月）を見据えて、投資先企業の成長支援を継続するとともに、出口戦略を明確にし、投資回収に向けた交渉を行う。



2-15

販路開拓

台湾ビジネスサポート事業（海外販路開拓支援事業）

事業の目的

円高や国内市場の縮小を乗り越えて地域企業が持続的に発展するために海外展開をサポートする。特に、中国への足掛かりを有し、市場の成長性、電子業界の集積度、生産技術力が高く、産業のインフラが整っている「台湾」をターゲットとする。

事業概要

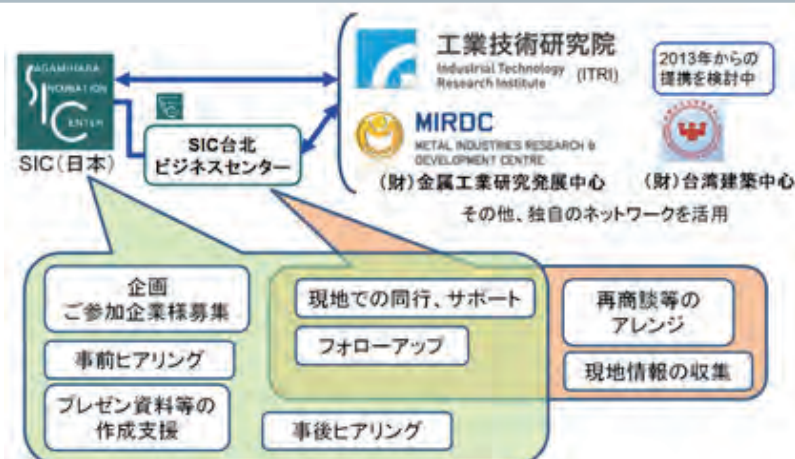
日 付	内 容	参 加 実 績
平成 24 年 9 月 25 日 ～ 29 日	第 3 回台湾ビジネスマッチング 於：台湾（台北・新竹・高雄）	面談 5 社 46 件 ➡ 見積 2 社 12 件 商談中 2 社 7 件
平成 25 年 1 月 26 日	日本台湾アライアンスセミナー 於：東京	40 団体 76 名の参加
平成 25 年 2 月 1 日	日本台湾アライアンスセミナー 於：神奈川	37 団体 57 名の参加

顧客の声

- ・受注につながった、良い提携先が見つかった。
- ・自社の技術への潜在ニーズを知る機会になった。
- ・商談相手の反応を通じて、自社の強みを再認識した。
- ・迅速な意思決定や明確な意思表示こそが大事なのだと認識した。
- ・経営スタイルや方針を見直す良い刺激になった。
- ・経営トップ自らが出向いての即断即決、同時に、焦らず腰を据えて取り組むことの大切さを認識した。
- ・展示会への出展するのに比べると的確な商談相手と出会うことができ、費用対効果が高かった。



運営体制



2-16

販路開拓

ビジネスマッチング事業（首都圏南西地域連携サポート事業）

事業の目的

製造業の空洞化などにより、従来の取引関係の構造が変わりつつある中、技術開発の新たな担い手と期待される南西地域の中小企業が自社の強みをアピールし、新しいパートナーシップを築く。

▶ 商談数と成果

産産マッチング（ニーズ企業 3 社に対する面談を実施）

当日面談件数	21 件
後日面談件数	25 件
計	46 件



受注に繋がった	3 件
見積書提出	4 件
サンプル処理を行い協業検討	1 件
中期的な観点での協業検討	1 件
計	9 件

プライベート型面談会

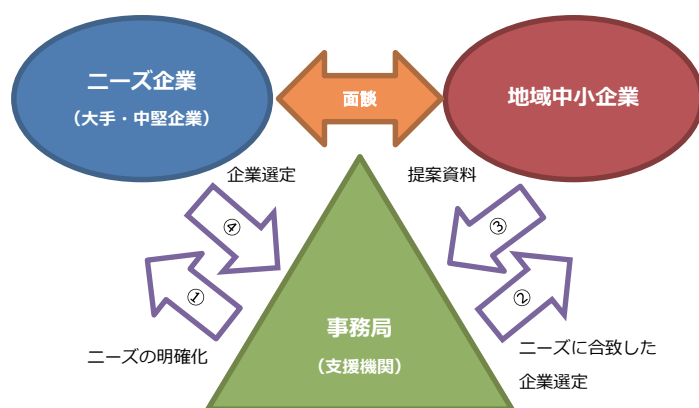
大手メーカー（研究所）	10 件
大手企業（試作受託部門）	25 件
計	35 件



受注に繋がった	2 件
見積書提出	5 件
計	7 件

▶ 事業概要

地域中小企業が生き残りをかけて事業を進めるための方策として 2 回にわたり開催した南西フォーラムで「成長分野での中小企業参入」をテーマにする一方、現下の産業空洞化対策として、地域内での大手・中堅企業と中小企業との協業を目指すために、今年度はこれまでのフォーラム内で開催した「産産マッチング」に比較して、より協業に至る成果を意識して「ビジネスマッチング事業」として取り組みを図った。



ニーズ企業から明確な具体的ニーズを把握し、適切なシーズを有する企業を探索し面談の場を決定する。

地域企業の発掘では、相模原市・相模原市産業振興財団・相模原商工会議所・まちだテクノパーク・地域金融機関などと連携し、いわゆる「相模原方式」として、ニーズに合致した地域企業の選定を進めた。

面談では、ニーズに対応できる企業の売り（強み）とともに、ニーズとの合致の確認

を行い、さらに工場見学等による開発・製造現場などを通じた確認、検討事項の回答などフォローアップ業務を行った。



2-17

インキュベーションコンサルタント 運営サポート事業

事業の目的

新たにビジネスインキュベータを整備しようとする機関に対しS I Cが長年培ってきた企業支援、支援ネットワークの構築、施設運営、B I 経営に関する知識やノウハウを提供する。

▶ T-BISC(Tokyo business incubation support center) の整備、運営のサポート

【設立趣旨】

一般財団法人機械振興協会と全国の産業振興機関がコンソーシアムを結成し、地方のビジネスインキュベータに入居する創業間もない企業にシェアードタイプの東京活動拠点を提供するとともに産業振興機関が持つネットワークを活用し、国内外のビジネスマッチングを行う。



▶ MBDA(町田新産業創造センター) の運営サポート

【設立趣旨】

良好な交通アクセス、優れた市民文化、自然環境など多面的な町田市の魅力を活用した大都市近郊型の事業拠点として、意欲的な成長を目指す事業者に、調査、販路拡大、経営相談等の多面的な支援を行うことで、全国で活躍できる独創的・個性的な企業の創出を目指します。



2-18

その他

ソーシャルビジネス創育支援事業

事業の目的

相模原市の地域資源（農林業、健康、環境など）を活かし、社会性のある事業の創出および育成を行い、地域の産業活性化を図る。

事業概要

1. 相模原市の地域資源を活用した活動の事業化支援（担当部署：地域資源発信プロジェクト室）

- (1) 青根地域コミュニティ拠点運営改善支援
青根草木館の店舗運営改善、ホームページ制作、津久井森林体験教室 2012 運営等の各種支援
- (2) 鳥居地域農特産物販売施設運営指定管理者の経営改善支援
有限会社鳥居原の経営改革への助言、イベントサポート、顧客アンケート、栽培実験等の各種支援
- (3) 麻布大学環境コミュニティ活動支援
PR ツールの制作、地域情報の提供等の各種支援



2. 事業者向けメンタルヘルス・プログラムの事業化（担当部署：ヘルスサイコロジー研究所）

- (1) 健康心理教育プログラムの開発・実施
事業者ヒアリング、研修・セミナーの開催等
- (2) 事業者向け職場環境分析 Web システムの運用
事業者が Web 上で行う職場環境自己評価システムの運用・メンテナンス
- (3) メンタルヘルス啓蒙のためのセミナー
公募形式によるワークを取り入れたメンタルセミナーの実施



3. 成果

●地域系プロジェクト

地域における課題が明確化され、活動継続のための事業性向上につながる支援との評価を受け、平成 25 年度も支援継続の要請を受けている。

【青根草木館】

カフェメニュー考案、ホームページ製作について店舗スタッフと共同で取り組み、客単価の向上、来店客数の増加について効果が出始めている。

【鳥居原ふれあいの館】

地域との関係性の強化に取り組む当施設の今後のビジョン策定やイベント等のコンテンツ、運営体制について助言・支援を行い、役員・施設スタッフ、その他関係者の結束力が高まりつつある。

【麻布大学環境コミュニティ活動】

活動PR ツールの作成・配布により、青根地域での当活動の理解が得られ、地域との協同関係が生まれ、また、市街地住民の活動参加者が増え、事業継続のための活動基盤が強まりつつある。

●メンタルヘルス系プロジェクト

事業者におけるメンタルヘルスの一定のニーズをつかみ、各種プログラム実施後の受講者側の意識改善、またはメンタルヘルスの必要性を深めることができた。

	地域系プロジェクト	メンタルヘルス系プロジェクト	合計
支援先件数	4 件	5 件	9 件
セミナーイベント開催数（参加者数）	1 回 (27 名)	6 回 (226 名)	7 回 (253 名)

2-19

その他

高度実践型人材育成事業

事業の目的

地域全体の経営支援力を強化するため、金融機関の研修生をSICが受け入れ、SICがこれまで培ってきた支援ノウハウを伝授する。

事業概要

平成24年度高度人材実践型人材育成事業（経済産業省関東経済局補助金）として実施した。本事業は、SICのようなノウハウを有する支援機関に金融機関等から研修生を派遣することで、経営支援ノウハウを身に付けて頂く事業である。

SICが受入支援機関となり地域金融機関からの研修生を受け入れ、企業支援に関するスキルアップやネットワーク構築の支援につなげた。

研修プログラム

事業期間	平成24年11月26日～平成25年3月29日
事業実施機関	株式会社さがみはら産業創造センター
研修生の受け入れ	八千代銀行より2名

研修受け入れ

研修その①：総合経営支援人材育成プログラム

研修テーマ	成長志向のものづくり企業の支援ノウハウをその発掘から支援までを包括的に研修
具体的内容	「相模原市中小企業新分野等進出支援事業（通称：パワーアップ）」事業活動を通して、支援機関の基礎的取り組みから個別支援ノウハウをトータル的に研修していただいた。

研修その②：新課題対応型経営支援人材育成プログラム

研修テーマ	新たな経営環境の変化（地域中小企業の新課題）に対応する海外販路支援等の支援ノウハウの研修
具体的内容	「台湾ビジネスサポート」事業におけるマッチング会、セミナー等開催の事業活動を通じて、海外展開を図る中小企業に対する対応ノウハウを研修していただいた。



3-1

さがみはら産業創造センターの歩み

1998 年度 (平成 10 年度)	検討会の提言…市内の若手経営者、相模原市などの若手スタッフによる検討会が相模原市にセンター整備を提言
1999 年度 (平成 11 年度)	会社設立…相模原市、相模原商工会議所及び新事業創出促進法に基き地域振興整備公団（現中小企業基盤整備機構）が出資し会社設立 増資…地元企業や地域金融機関などが出資 第 1 回女性起業家育成セミナー開催
2000 年度 (平成 12 年度)	S I C-1（インキュベーションセンター）オープン 第 1 回ビジネスプランコンテスト開催
2001 年度 (平成 13 年度)	第 1 回さがみはら子どもアントレプレナー体験事業開催 増資…相模原市、地域振興整備公団（現中小企業基盤整備機構）、地元企業が出資
2002 年度 (平成 14 年度)	S I C-2（ポストインキュベーションセンター）オープン 女子美術大学と「ヒューマンデザイン開発支援事業」に関する協定を締結、中小企業のデザインを支援するデザイン開発支援事業を開始 経済産業省から「即効型地域新生コンソーシアム事業」を受託 第 1 回「S I C 経営塾」開講
2003 年度 (平成 15 年度)	職業能力開発総合大学校と「地域企業活性化支援事業」に関する協定を締結 八千代銀行と「起業家支援事業」に関する協定を締結 地域企業 450 社の実態調査を実施
2004 年度 (平成 16 年度)	神奈川工科大学と「産学連携事業」に関する協定を締結 第 1 回「S I C アントレ・インターンシップ」開講 かわらばん（入居企業版）創刊号発行
2005 年度 (平成 17 年度)	S I C 1 号投資事業有限責任組合（S I C ファンド）を組成 神奈川県から「新産業創出拠点形成促進事業」を受託 S I C 燃料電池研究会が発足 第 1 回 SIC 起業家塾開講
2006 年度 (平成 18 年度)	相模原市から「首都圏南西地域産業活性化フォーラム」の運営を受託
2007 年度 (平成 19 年度)	第 1 回職場リーダー塾開講 S P S 研究会が発足
2008 年度 (平成 20 年度)	株式会社カイゼン・マイスターと業務提携し、地元企業向けのカイゼン支援を開始 かわらばん（地域企業版）創刊号発行
2009 年度 (平成 21 年度)	さがみはら企業力支援事業を開始、併せてメンター（経営指南者）制度を創設 緊急雇用事業を相模原市から受託し、大規模な市内企業実態調査や産業界の人づくり支援事業などの人材育成に取り組む 経済産業省から「低炭素社会に向けた技術発掘・社会システム実証モデル事業」を受託
2010 年度 (平成 22 年度)	さがみはら表面技術研究所オープン インキュベーション型シェアードオフィス「DESK [®] 」オープン 第 1 回台湾ビジネスマッチングを開催
2011 年度 (平成 23 年度)	台湾工業技術研究院と連携協定を締結 S I C-3（イノベーションラボ）オープン S I C 台湾ビジネスセンターオープン 経済産業省「戦略的基盤技術高度化支援事業」を受託 企業紹介冊子「おもしろ企業の魅力拝見！」出版 地域発信冊子「葎尾根のブルーベリー」発行
2012 年度 (平成 24 年度)	神奈川県「かながわ環境関連産業ネットワーク事業」等を受託 経済産業省「高度実践型支援人材育成事業」を受託 インキュベーションセンター「T-B I S C」、「M B D A」の計画・運営サポートを受託 第 1 回 SIC カイゼン研究会開講 第 1 回南西フォーラムビジネスマッチング開催

3-2

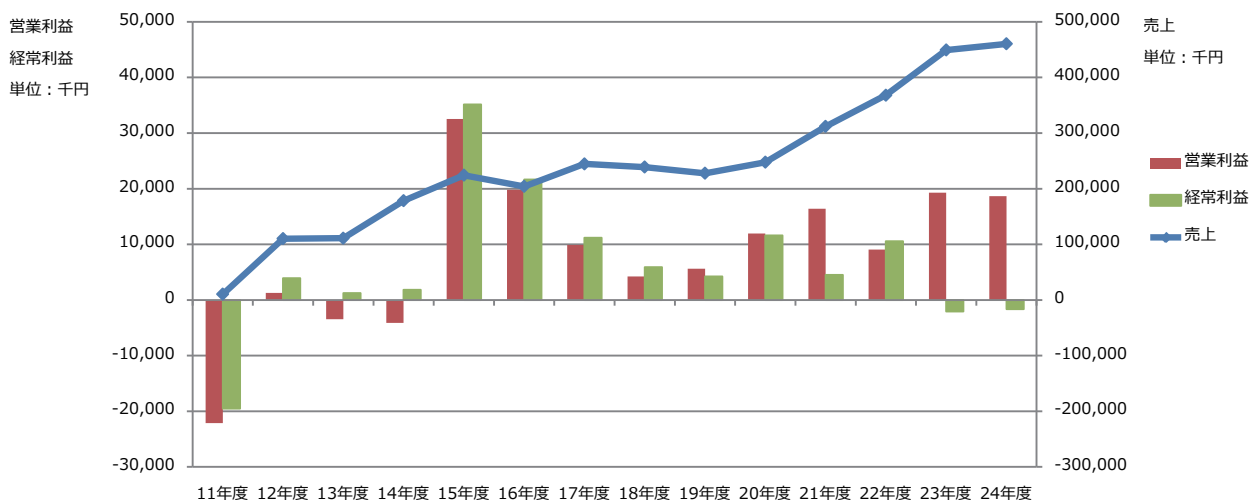
主な事業と開始年度（カテゴリー別）

年 度	ラボ・オフィス	経営サポート	技術開発	人材育成	資金調達	販路開拓
1999年度 (平成11年度)		・ビジネスプランコンテスト	・新規成長産業連携 支援事業	・女性起業家育成 セミナー		
2000年度 (平成12年度)	SIC-1 オープン	・株式公開塾 ・入居企業セミナー	・中小企業のための技術 セミナー			
2001年度 (平成13年度)			・ミニコンソーシアム 事業	・さがみはら子どもアン トレプレナー体験事業 (小学生)		
2002年度 (平成14年度)	SIC-2 オープン	・アントレフォスター事業 ・中小企業のデザイン 開発支援	・経済産業省「即効型 地域新生コンソー シアム」受託	・SIC 経営塾 ・さがみはら子どもアン トレプレナー体験事業 (中学生)		・KSP ベンチャー マッチング商談会に 参画
2003年度 (平成15年度)		・八千代起業家支援 プログラム ・地域企業実態調査 (450社)	・大学シーズ調査	・SIC 経営者セミナー		
2004年度 (平成16年度)		・さがみはら青年アントレ プレナープロデュース事業 ・かわらばん（入居企業版） 創刊号発行	・新技術創造研究会	・SIC アントレ・インターン		
2005年度 (平成17年度)			・神奈川県「新産業 創出拠点形成促進 事業」受託 ・燃料電池研究会発足	・SIC 起業家塾	・SIC1 号投資事業 有限責任組合組成	
2006年度 (平成18年度)		・チャレンジショップ	・「首都圏南西地域 産業活性化フォーラム」 受託	・SIC 起業家育成大学校	・入居企業4社、地域 企業3社に出資	
2007年度 (平成19年度)			・SPS 研究会	・SIC 職場リーダー養成塾		
2008年度 (平成20年度)		・中小企業のカイゼン 活動支援 ・かわらばん（地域企業版） 創刊号発行	・実用化開発支援			・SIC テクノロジー マッチング ・KSP 協創マッチング フォーラムに参画
2009年度 (平成21年度)		・メンター制度 ・さがみはら企業力支援 事業 ・地域企業実態調査 (500社)	・経済産業省「低炭素 社会に向けた技術発 掘・社会システム実証 モデル事業」受託	・地域産業界の人づくり 支援事業 ・さがみはら未来塾 ・ベンチャー・中小企業 人材確保支援事業		
2010年度 (平成22年度)	DESK [®] オープン	・ソーシャルビジネス創育 支援事業	・高度研究人材活用 事業（さがみはら表面 技術研究所） ・神奈川県バイオベン チャー人材活用事業			・台湾ビジネス マッチング開催 ・川崎市産業振興財団 新事業マッチング フォーラム参画
2011年度 (平成23年度)	SIC-3 オープン	・企業紹介冊子「おもしろ 企業の魅力拝見！」 出版 ・地域発信冊子「葦尾根 のブルーベリー」発行	・経済産業省「戦略的 基盤技術高度化支援 事業」受託 ・新製品開発のための 「協創プロジェクト」 ・相模原市から「新技術 実用化コンソーシアム 形成支援事業」受託	・iSB 公共未来塾		・台湾工業技術研究院 と協定 ・SIC 台湾ビジネス センターオープン
2012年度 (平成24年度)	T-BISC、 「MBDA」 の計画・運 営サポート	・SIC カイゼン研究会 ・地域発信冊子「里山コ ミュニティ」発行 ・企業紹介冊子「い〜コ トなび」発行	・神奈川県「かながわ環 境関連産業ネットワ ーク事業」	・経済産業省「高度実践 型支援人材育成事業」 ・女性力発揮セミナー ・子どもワークショップ		・日本台湾アライア ンスセミナー ・南西フォーラムビジ ネスマッチング

3-3

財務状況

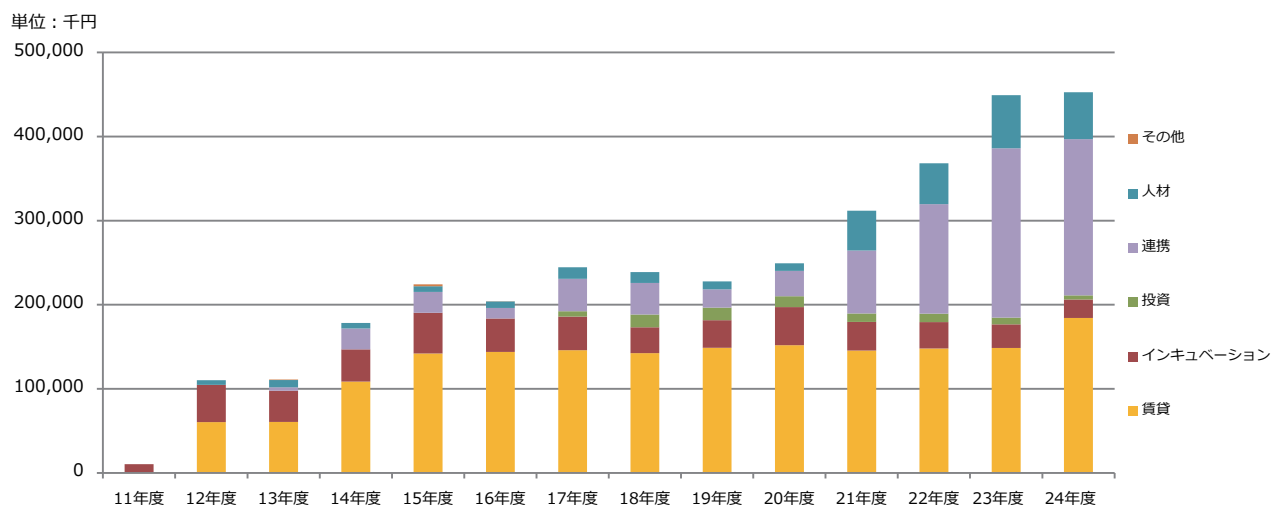
P／L 推移



単位：千円

	11年度 (1期)	12年度 (2期)	13年度 (3期)	14年度 (4期)	15年度 (5期)	16年度 (6期)	17年度 (7期)	18年度 (8期)	19年度 (9期)	20年度 (10期)	21年度 (11期)	22年度 (12期)	23年度 (13期)	24年度 (14期)
売上	10,429	110,264	111,008	178,323	224,271	204,022	244,523	238,812	227,805	247,560	311,824	368,145	449,221	452,739
営業利益	-22,122	1,257	-3,455	-4,101	32,523	19,804	9,914	4,219	5,620	11,946	16,397	9,080	19,283	18,649
経常利益	-19,522	3,922	1,256	1,817	35,141	21,656	11,200	5,910	4,242	11,604	4,514	10,568	-2,082	-1,641

事業別売上高の推移



単位：千円

	11年度 (1期)	12年度 (2期)	13年度 (3期)	14年度 (4期)	15年度 (5期)	16年度 (6期)	17年度 (7期)	18年度 (8期)	19年度 (9期)	20年度 (10期)	21年度 (11期)	22年度 (12期)	23年度 (13期)	24年度 (14期)
貸貸	0	60,473	60,622	108,655	142,026	143,982	145,990	142,525	148,914	151,930	145,552	147,969	148,705	184,290
インキュベーション	10,429	44,344	37,125	38,379	48,475	39,669	40,038	30,769	32,709	45,225	34,042	31,402	28,039	21,837
投資	0	0	0	0	0	0	6,250	15,000	15,000	12,915	9,999	10,000	7,917	5,000
連携	0	0	4,130	24,713	24,744	12,530	38,545	37,595	21,655	30,258	74,868	130,200	201,456	185,723
人材	0	5,447	8,629	6,576	6,785	7,809	13,699	12,922	9,525	8,969	47,363	48,574	63,105	55,889
その他	0	0	502	0	2,240	32	0	0	0	0	0	0	0	0
売上合計	10,429	110,264	111,008	178,323	224,271	204,022	244,523	238,812	227,805	247,560	311,824	368,145	449,222	452,739

3-4

競争的資金の獲得

年 度	資金獲得先	事 業 名	資 金 額
平成 14 年度	経済産業省	即効型地域新生コンソーシアム研究開発事業 「次世代デバイス用超高精度ナノレベル研磨・洗浄複合装置の開発」	40,000
平成 17 年度	神奈川県	新産業創出拠点形成促進事業 「燃料電池システムにおける本体及び周辺機器・部品の開発」	20,000
平成 18 年度	神奈川県	新産業創出拠点形成促進事業 「燃料電池システムにおける本体及び周辺機器・部品の開発」	22,000
平成 20 年度	中小機構	川上川下ネットワーク構築支援事業 「次世代エネルギーシステムの早期実用化ネットワーク構築」 新現役チャレンジ支援事業 「新現役人材による中小企業支援のモデル事業としてカイゼン支援プログラム開発」 ビジネス・インキュベータ（B I）における広域的ネットワーク構築の調査事業 「グループインキュベーション」手法の開発と検証 ―ネットワークによる支援と手法のネットワーク化―	25,600
	神奈川県	ベンチャー創出促進モデルプロジェクト事業 「動物病院医療市場を対象とした犬のアレルギー及び免疫検査受託事業」 「静電エンコーダの事業化」	
平成 21 年度	経済産業省	低炭素社会に向けた技術発掘・社会システム実証モデル事業 「太陽光雨水などの自然の恵みを有効活用した安全・安心な低炭素社会システムの構築」	64,000
平成 22 年度	経済産業省	中小企業海外販路開拓支援事業（台湾ビジネスマッチング） 「神奈川県ビジネス・インキュベータ連携による I T / エレクトロニクス分野研究 関連型ベンチャー企業の海外販路支援事業」	11,500
平成 23 年度	経済産業省	戦略的基盤技術高度化支援事業 「次世代パワーデバイス向け革新的手法を用いた成膜技術の開発」	
	中小機構	B I ネットワーク構築事業 「T - B I S C の整備に協調・連携した国内外ビジネスマッチング事業」	7,000
	神奈川県	新産業ベンチャー事業化支援事業 「生物機能制御・改善のための体内時計調節剤及び関連試薬の開発」	
	相模原市	新技術実用化コンソーシアム形成支援事業 「表面形状を制御した低摺動医療用機能部品の要素開発」	
平成 24 年度	経済産業省	戦略的基盤技術高度化支援事業 「次世代パワーデバイス向け革新的手法を用いた成膜技術の開発」 高度実践型支援人材育成事業	
	神奈川県	かながわ環境関連産業ネットワーク事業 「かながわエネルギー関連ベンチャー連携プロジェクト事業化支援事業」 「かながわエネルギー関連ベンチャーマッチング・パートナーリング支援事業」	101,700
	相模原市	新技術実用化コンソーシアム形成支援事業 「表面形状を制御した低摺動医療用機能部品の要素開発」	

単位：千円

3-5

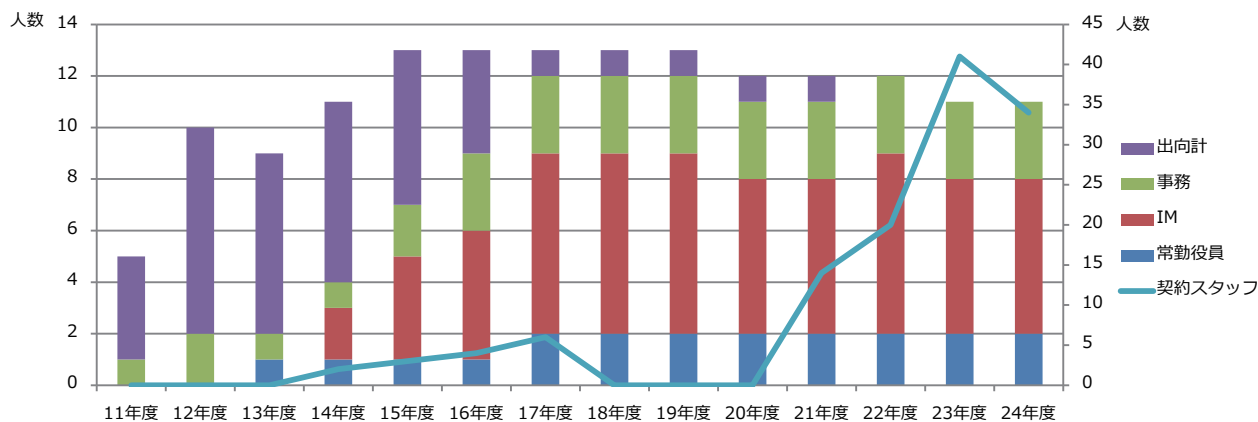
当社及び SIC ファンドの出資状況

	当 社		SIC ファンド	
	入居企業	地域企業	入居企業	地域企業
平成 13 年度		1 社 (2,400)		
平成 14 年度		1 社 (2,100)		
平成 16 年度				
平成 18 年度	1 社 (5,000)		4 社 (120,000)	3 社 (71,000)
平成 19 年度	1 社 (5,000)		1 社 (20,000)	2 社 (92,000)
平成 20 年度			1 社 (20,100)	
平成 21 年度				1 社 (6,752)
平成 22 年度				1 社 (15,000)

* () 数字は金額 単位：千円

3-6

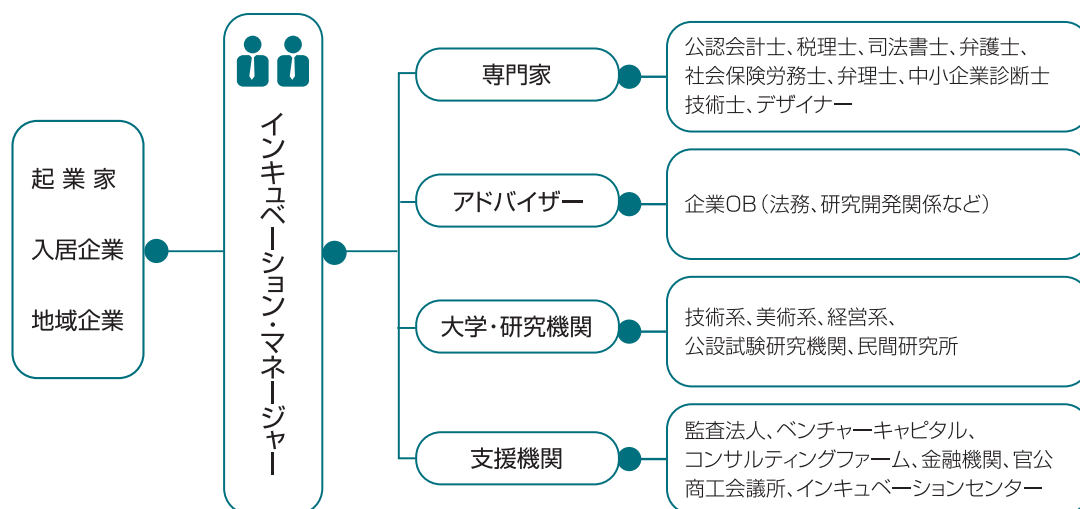
スタッフ数の変遷



	11年度 (1期)	12年度 (2期)	13年度 (3期)	14年度 (4期)	15年度 (5期)	16年度 (6期)	17年度 (7期)	18年度 (8期)	19年度 (9期)	20年度 (10期)	21年度 (11期)	22年度 (12期)	23年度 (13期)	24年度 (14期)
常勤役員	0	0	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2
非常勤役員	13	13	13	13	15	15	13	12	11	10	10	10	11	11
IM	0	0	0	2	4	5	7	7	7	6	6	7	6	6
事務	1	2	1	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3
相模原市から出向	3	5	5	4	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0
中小機構からの出向	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
銀行からの出向	1	3	1	2	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0
出向計	4	8	7	7	6	4	1	1	1	1	1	0	0	0
計	5	10	8	10	12	12	11	11	11	10	10	10	9	9
契約スタッフ	0	0	0	2	3	4	6	0	0	0	14	20	41	34

3-7

支援ネットワーク



インキュベーション・マネージャー (IM) とは、

事業の創出・育成（ビジネス・インキュベーション）のための問題を起業家と一緒に考え解決する人であり喜びを共有し、良き相談相手となる人です。そして、事業を志す人に、事業開始から成長へ向けて種々の行う施設を起業家育成施設（インキュベーションセンター）といいます。

3-8

視察・研修の受け入れ

平成 24 年度 国内

名 称
視 察
公益財団法人神奈川産業振興センター
公益財団法人横浜企業経営支援財団
政令指定都市産業部門会議
学校法人専修大学
公益財団法人しまね産業振興財団
株式会社さかい新事業創造センター
三井住友銀行
町田商工会議所
独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所
京都リサーチパーク株式会社
多摩信用金庫
横浜市
研 修
財団法人 日本立地センター ビジネス・インキュベーション（B I）研修

海外

年 度	名 称	国
平成 17 年度	チュニジアベンチャーキャピタル協会 海外技術者研修	チュニジア アジア、アフリカ諸国
平成 19 年度	集団研修地方自治体による民間産業活性化セミナー（JICA） モンゴル中小企業振興研修	アジア、アフリカ、中東、中南米諸国 モンゴル
平成 20 年度	集団研修地方自治体による民間産業活性化セミナー（JICA）	アジア、オセアニア、アフリカ諸国
平成 21 年度	集団研修地方自治体による民間産業活性化セミナー（JICA） 韓国インキュベーションスタッフ研修	アジア、オセアニア、アフリカ諸国 韓国
平成 22 年度	オマーン技術大学指導員研修 無錫市政府 マレーシア国職業訓練校指導員研修	オマーン 中国 マレーシア
平成 23 年度	工業技術研究院 中国山東省（対日投資）視察団	台湾 中国
平成 24 年度	中小企業支援法制度検討視察（JICA） 国際企業人材育成センター日本語プログラム研修 （台湾貿易センター）	ベトナム 台湾

3-9

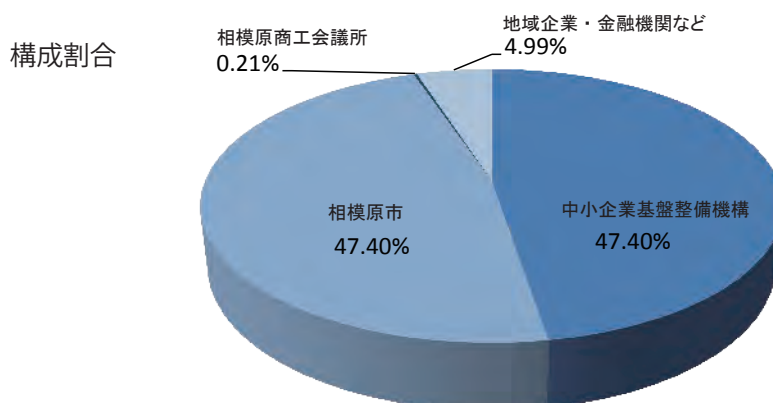
新聞掲載 (24 年度)

年月日	新聞名	表 題
2012.5.1	相模経済新聞	台湾とのタッグ進展 東京にも活動拠点 台北センターも始動
2012.5.10	相模経済新聞	6月から経営塾、養成塾 リーダーを育成
2012.6.1	相模原市広報	さがみはら子どもアントレプレナー体験事業
2012.6.2	日本経済新聞	円高の逆風、自治体が支援施設 首都圏の町工場を守れ ものづくりの灯継承
2012.6.8	日本経済新聞	医療機器に共同参入 獣医向け人工骨開発 相模原の中小4社
2012.6.20	相模経済新聞	中小製造業等支援で成果 マッチングで取引先拡張 メンターら“伴走”
2012.7.12	日刊工業新聞	大規模開発めじろ押し相模原市 企業誘致策を充実
2012.7.20	相模経済新聞	SICが東京タワー近くに活動拠点 創業企業の利用を支援 ビジネスマッチングも
2012.7.30	日刊工業新聞	SiC 基板真空成膜 低温・高速製法 自在に試作
2012.9.1	相模経済新聞	環境関連ビジネス マッチング開催 県や KAST など
2012.9.1	相模経済新聞	南西フォーラム 宇宙産業参入テーマに 分科会立上げへ
2012.9.6	日本経済新聞	JAXA の技術中小育成に活用 相模原で連携組織 製品受注も促進
2012.9.12	日本経済新聞	人・技術の交流 自治体が支援 中小企業・企業家向け 協業促しアイデア形に
2012.10.15	相模原市広報	産学官の連携で次世代産業に挑戦
2012.10.20	相模経済新聞	女性力発揮セミナー 11月から第2弾
2012.10.20	相模経済新聞	マッチングを強化 EMS 大手と連携促進へ
2012.10.20	日経産業新聞	表面技術研究所 中小技術集め医療機器参入
2012.11.1	相模経済新聞	「宇宙科学研究会」が始動 相模原市や JAXA など地元企業と連携促進
2012.12.6	日刊工業新聞	金属加工の台湾進出支援 来春、ITRI など訪問
2012.12.10	日刊工業新聞	特色豊かなインキュベーション施設
2012.12.10	相模経済新聞	金融機関の人材 SIC が研修へ 経産省から採択
2013.1.10	相模経済新聞	カイゼン研究会を新設 コンサル会社と連携 専門家が基礎から伝授
2013.1.10	相模経済新聞	宇宙科学研 電気と機械系 連携例を解説
2013.1.10	相模経済新聞	地域の中小企業 台湾進出を支援
2013.1.13	神奈川新聞	環境配慮し地域交流 休耕田復活や伝統行事
2013.1.19	日本経済新聞	中小の海外展開 リスク回避支援
2013.1.23	日本経済新聞	SIC 経営者セミナー
2013.1.24	日刊工業新聞	「カイゼン」で中小支援 研究会で体系的に学習 元トヨタ関係者ら指導
2013.1.31	日刊工業新聞	ビジネス創造
2013.2.1	相模経済新聞	先進的取り組みを紹介 テクニカルショウヨコヨコハマ
2013.2.1	近代セールス	八千代銀行 専門の創業相談窓口を拠点に様々な支援策をコーディネート
2013.2.20	相模経済新聞	燃料電池を開発 小型で飲料水供給も可能
2013.3.20	相模経済新聞	技術サポート、地域コンソーシアム さがみはら表面技術研究所
2013.3.28	日刊工業新聞	医工連携プロ体制整う 犬用の体内補助器具開発

3-10

株主と役員

相模原市	独立行政法人中小企業基盤整備機構
株式会社ボイス	株式会社ハリマビシステム
古木建設株式会社	株式会社八千代銀行
株式会社横浜銀行	湘南デザイン株式会社
株式会社三菱東京UFJ銀行	相模原商工会議所
日本テクノ株式会社	城山工業株式会社
日本電子工業株式会社	三菱重工業株式会社
権田金属工業株式会社	株式会社相模運輸
相模原市農業協同組合	相模ガス株式会社
株式会社昭和真空	株式会社ア・ドマニー
篠崎電業株式会社	タイヨー印刷株式会社
東京海上日動火災保険株式会社	東邦電子株式会社
野村 隆	ブックオフコーポレーション株式会社
アイシンク株式会社	Apex 株式会社



代表取締役	中嶋 隆	
専務取締役	山本 満	
取締役	松岡 康彦	(湘南デザイン株式会社 代表取締役)
	吉田 修一	(株式会社相模運輸 代表取締役)
	山崎 利宏	(城山工業株式会社 代表取締役)
	西澤 勇司	(株式会社キャロットシステムズ 代表取締役)
	杉本 祥一	(株式会社ハイスポット 代表取締役)
	古橋 裕一	(相陽建設株式会社 代表取締役)
	平田 光子	(日本大学大学院グローバル・ビジネス科 教授)
	加藤 一嘉	(相模原市 環境経済局 経済部長)
監査役	座間 進	(相模原商工会議所 専務理事)
	原田 恒敏	(公認会計士原田恒敏事務所 代表)
	圓谷 美智夫	(横浜銀行 相模原駅前支店 支店長)
	伊藤 亨	(八千代銀行 相模原法人営業部 部長)

